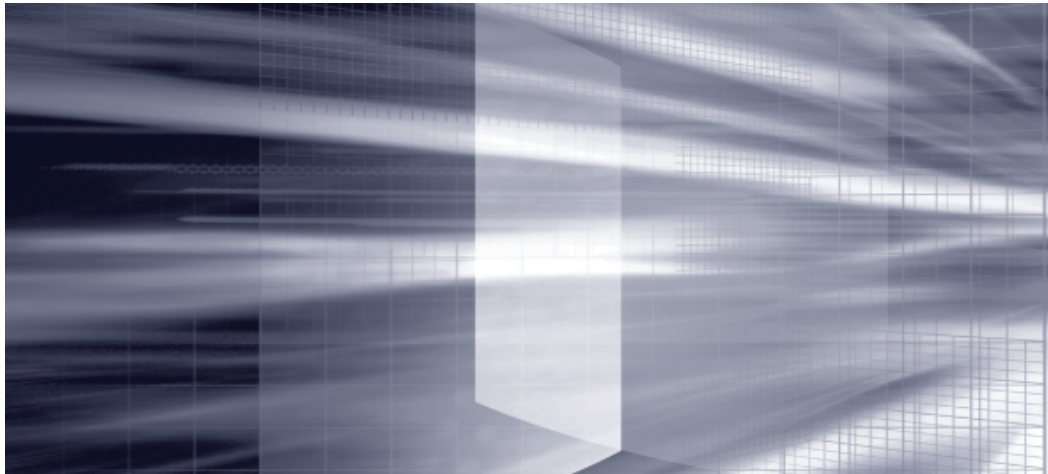


Endeavor MT9000

ユーザーズマニュアル 補足編



1 コンピューターの基本操作 p.3

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。

2 装置の増設・交換 p.49

拡張ボードや 5.25 型ドライブ（光ディスクドライブ）、3.5 型ドライブ（HDD）の増設・交換方法について記載しています。

3 BIOSの設定 p.77

コンピューターの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について記載しています。

付録 p.101

本機のお手入れ方法や HDD 領域の変更方法などについて記載しています。

目次

1

コンピューターの 基本操作

Windows 操作のヒント.....	4
マウスを使う	8
キーボードを使う.....	9
HDD の概要.....	12
光ディスクメディアを使う	15
USB 機器を使う	23
画面表示機能	25
サウンド機能	27
ネットワーク機能 (有線 LAN).....	31
インターネットを使用する際のセキュリティ対策...	35
省電力機能	43
そのほかの機能.....	47

2

装置の増設・交換

増設・交換できる装置.....	50
作業時の注意	51
装置装着時の準備作業.....	52
拡張ボードの装着.....	57
ドライブ装置とコネクタの接続.....	63
5.25 型ドライブの装着.....	66
3.5 型ドライブの装着.....	70
コンピューター内部のケーブル接続.....	75

3

BIOS の設定

BIOS の設定を始める前に.....	78
BIOS Setup ユーティリティの操作.....	79
BIOS Setup ユーティリティの設定項目	91

付録

お手入れ	102
消去禁止領域のデータをバックアップする	103
HDD 領域の変更.....	106
コンピューターを廃棄するときは.....	110

1

コンピューターの基本操作

キーボードやマウス、光ディスクドライブの使用方法など、コンピューターの基本的な操作方法について記載しています。

Windows 操作のヒント.....	4
マウスを使う	8
キーボードを使う.....	9
HDD の概要.....	12
光ディスクメディアを使う	15
USB 機器を使う	23
画面表示機能	25
サウンド機能	27
ネットワーク機能（有線 LAN）.....	31
インターネットを使用する際のセキュリティ対策...	35
省電力機能	43
そのほかの機能.....	47

Windows 操作のヒント

Windows 操作についてのヒントを記載します。

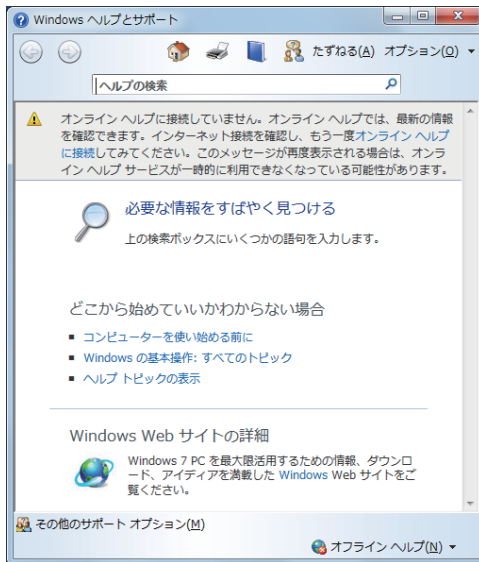
Windows 7の使用方法

Windows 7 の使用法は、次をご覧ください。

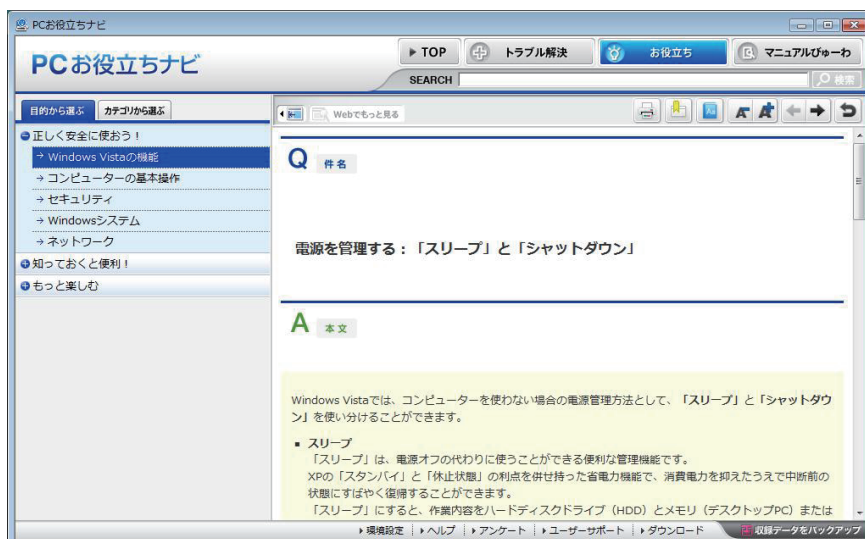
●ヘルプとサポート

「ヘルプとサポート」は次の場所から開きます。

[スタート] - 「ヘルプとサポート」

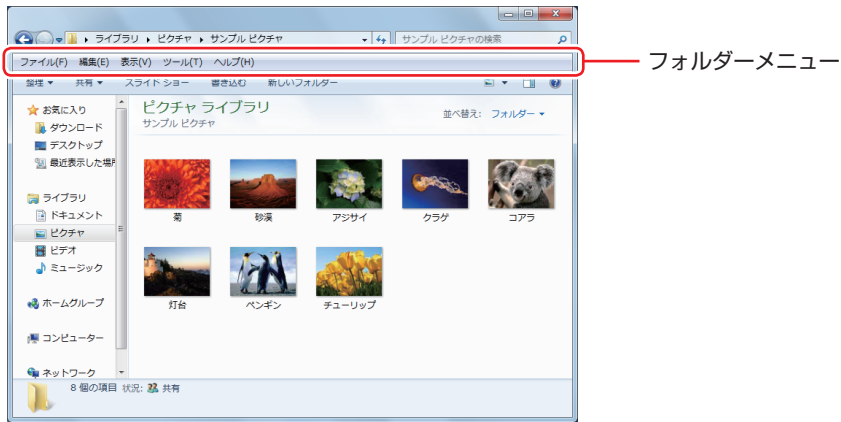


●「PC お役立ちナビ」 - 「お役立ち」



フォルダーメニューの表示

「ファイル」や「ツール」などのフォルダーメニューは、標準では表示されません。フォルダーメニューを表示したい場合は、**[Alt]** を押します。もう一度 **[Alt]** を押すと、フォルダーメニューは表示されなくなります。



常にフォルダーメニューを表示したい場合は、次の場所で設定します。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[デスクトップのカスタマイズ]** - **[フォルダーオプション]** - **[表示]** タブ - **[常にメニューを表示する]**

ユーザーアカウントを作る

本機を何人かで共同で使用する場合は、ユーザーアカウントを作成すると便利です。ユーザーアカウントをいくつか作成すると、Windows をユーザーごとに切り替えて、各ユーザーの構成で本機を使用することができます。

ユーザーアカウントの作成

ユーザーアカウントの作成は、次の場所で行います。

[スタート] - **[コントロールパネル]** - **[ユーザーアカウントと家族のための安全設定]** - **[ユーザーアカウント]** - **[別のアカウントの管理]** - **[新しいアカウントの作成]**

※ユーザー名は半角英数字を入力してください。

作成時、ユーザーに応じてユーザーアカウントの種類（権限）を設定してください。

ユーザーアカウントの種類（権限）には、次の2つがあります。

●管理者


すべてのシステム項目にアクセスし、設定を変更したり、ドライバー、ソフトウェアのインストールをすることができます。

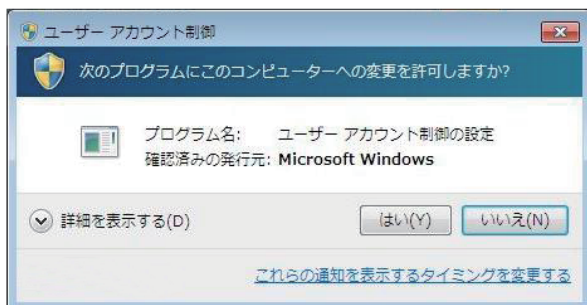
購入時やリカバリー時の Windows のセットアップで入力したユーザー名(アカウント)は、「管理者」になります。

●標準ユーザー

一部のシステム項目の変更や、ドライバー、ソフトウェアのインストールは行うことができません。管理者のパスワードを入力すれば、変更やインストールが可能になります。

ユーザーアカウント制御画面

コントロールパネルなどで  が表示されているシステム項目にアクセスしようとしたり、ドライバやソフトウェアのインストールをしようすると、「ユーザーアカウント制御」画面が表示されます。これは、項目にアクセス制限がかけられているためです。



表示される「ユーザーアカウント制御」画面は、ユーザーアカウント（管理者または標準ユーザー）により異なります。本書の手順は、管理者アカウントで Windows にログオンした状態を前提に記載しています。

Windows Live Essentials

本機には、Windows Live の以下のソフトウェアがインストールされています。

- Windows Live Messenger
- Windows Live フォトギャラリー
- Windows Live ムービーメーカー
- Windows Live メール
- Microsoft Silverlight
- Windows Live Mesh
- Windows Live Writer

起動方法

Windows Live の各ソフトウェアは、次の場所から起動します。

【スタート】 - 「すべてのプログラム」

※ Windows Live 製品を使用するには、初回起動時、使用許諾が必要です。

使用方法

各ソフトウェアの使用方法は、次の場所をご覧ください。

- 各ソフトウェアのヘルプ
- Windows Live のヘルプページ
<http://help.live.com>
- Windows Live ポータルサイト
<http://windowslive.jp.msn.com/>
- Windows Live Solution Center
<http://windowslivehelp.com/>

Windows Live ID を作成する

Windows Live を使用するには、Windows Live ID が必要になります。

Windows Live ID は無償で作成することができます。

インターネットへ接続後、各ソフトウェアの「サインイン」画面で作成してください。

次のいずれかのサービスをご利用の場合は、そのアカウントを Windows Live ID として使うことができます。

- MSN Hotmail
- MSN Messenger
- Microsoft Passport

サポートについて

Windows Live のサポートは、マイクロソフト社で行っています。無償サポートは、電子メールのみです。

サポートの詳細は、次の Web ページをご覧ください。

<http://support.live.com>

Windows XP Mode (Windows 7 Ultimate/Professionalのみ)

Windows XP Mode を使用すると、Windows 7 上で Windows XP を起動し、Windows XP のアプリケーションを動作させることができます。

起動方法

Windows XP Mode は、次の場所から起動します。

[スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「Windows Virtual PC」 - 「Windows XP Mode」

※ 初回起動時はセットアップ画面が表示されます。画面の指示に従って、セットアップを行ってください。詳しいセットアップ手順は次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 画面下「ユーザーサポート」 - FAQ 番号：29149

マウスを使う

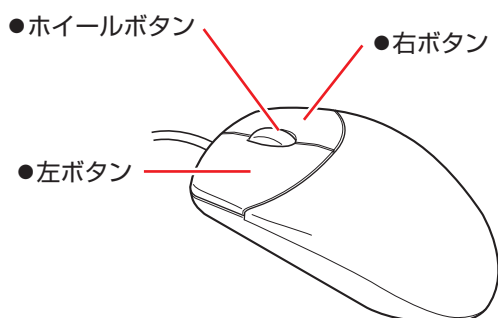
ここでは、一般的なマウスについて説明します。

マウスにマニュアル（冊子または PDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

マウスの操作

！ 制限

- 表面が反射する場所やざらざらした場所、複雑なイラスト入りのマウスパッドの上で使用しないでください。マウスの動きがコンピューターに伝わりません。
- ソフトウェアによっては、ホイールボタンが使用できない場合があります。
- 本機が省電力状態や電源を切った状態であっても、マウスによっては底面のランプが光り続けます。これは、お使いのマウスの仕様です。



マウスの基本的な操作は、次のとおりです。

クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを 1 回カチッと押します。
ダブルクリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを 2 回続けてカチカチッと押します。
右クリック	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、右ボタンを 1 回カチッと押します。
ドラッグアンドドロップ	マウスカーソルを画面上の対象に合わせて、左ボタンを押したままの状態でもうすを移動し、離します。
スクロール	ホイールボタンを指先で前後に動かすと、縦スクロール操作を行うことができます。ホイールボタンをクリックすると、マウスを動かしてオートスクロールを行うこともできます。

マウスの設定変更

マウスボタンの設定や使用環境の変更は、次の場所で行います。

【スタート】 - 【コントロールパネル】 - 【ハードウェアとサウンド】 - 【マウス】

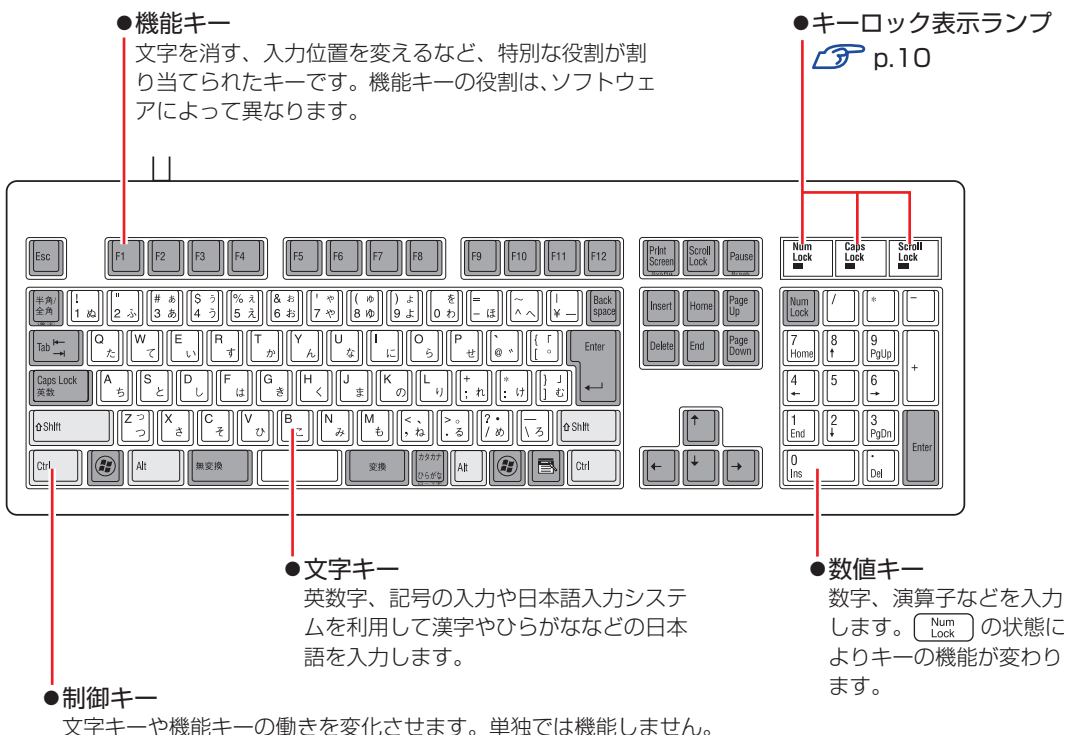
キーボードを使う

ここでは、一般的なキーボードについて説明します。

キーボードのマニュアル（冊子またはPDF）が添付されている場合は、本書とあわせてご確認ください。

キーの種類と役割

各キーには、それぞれ異なった機能が割り当てられています。



文字を入力するには

文字キーを押すとキートップ（キーの上面）に印字された文字が入力されます。

入力モードによって、入力される文字は異なります。

直接入力モード		キートップのアルファベットをそのまま入力します。
日本語入力モード	ローマ字入力	キートップのアルファベットでローマ字を入力し、漢字やひらがなに変換します。
	かな入力	キートップのひらがなをそのまま入力し、漢字やカタカナに変換します。

入力モードの切り替え

半角/全角を押すと、直接入力モードと日本語入力モードを切り替えることができます。

日本語入力モードのローマ字入力とかな入力の設定は日本語入力システムで行います。

日本語を入力するには


ひらがなや漢字などの日本語の入力は、日本語入力システムを使用します。本機には日本語入力システム「MS-IME」が標準で搭載されています。

MS-IME の使い方

MS-IME パネルの主要なボタンの名称と働きは、次のとおりです。ボタンをクリックして各設定を行ったり、ヘルプを参照したりします。

● **入力モード**
入力モード（ひらがな、カタカナ、英数字など）を選択します。

● **ヘルプ**
MS-IME の詳しい説明を見ることができます。



● **かなキーロック**
日本語入力モードの切り替えを行います。

ボタンが押されていない状態	ローマ字入力
ボタンが押されている状態	かな入力

MS-IME 以外の日本語入力システムを使用する場合は、そのシステムのマニュアルをご覧ください。

キーロック表示ランプ

キーボード右上の 3 つのランプは、キーボードの入力状態を表示しています。

Num Lock	役割	数値キーの状態を切り替え
	切り替え	 を押します。
	点灯時	数値を入力
	消灯時	カーソルの位置を制御 数値キーの    などが使えます。
Caps Lock	役割	アルファベットの大文字 / 小文字の切り替え
	切り替え	 +  を押します。
	点灯時	大文字を入力
	消灯時	小文字を入力
Scroll Lock	役割	ソフトウェアによって異なります。
	切り替え	 を押します。


キーボードからの起動

PS/2 キーボードでは、BIOS の設定後、**Ctrl** + **Esc** を押すと、次のようなことができます。

- 本機の電源を入れる
- 本機を省電力状態から復帰させる

 p.46 「省電力状態からの復帰方法」

制限


- この機能は、USB 接続のキーボードでは使用できません。
- 電源切断時に、正常にシャットダウンした状態でのみ使用可能です。
- 本機では、キーボードの「 キー」は使用できません。

BIOS の設定

PS/2 キーボードの **Ctrl** + **Esc** で起動するには、BIOS の設定が必要です。
「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を設定してください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PS/2 Keyboard」：Ctrl + ESC

 p.79 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.95 「Power メニュー画面」

HDD の概要

本機にはシリアル ATA300MB/s 対応の HDD (ハードディスクドライブ) が搭載されています。HDD は、大容量のデータを高速に記録する記憶装置です。

制限

- HDD のアクセスランプ点滅中に、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。アクセスランプ点滅中は、コンピューターが HDD に対してデータの読み書きを行っています。この処理を中断すると、HDD 内部のデータが破損するおそれがあります。
- 本機を落としたり、ぶつけたりしてショックを与えると HDD が故障するおそれがあります。ショックを与えないように注意してください。
- HDD が故障した場合、HDD のデータを修復することはできません。

データのバックアップ

HDD に記録されている重要なデータは、光ディスクメディアや外付け HDD などにバックアップしておくことをおすすめします。万一 HDD の故障などでデータが消失してしまった場合でも、バックアップを取ってあれば、被害を最小限に抑えることができます。バックアップ方法は、次の場所をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【お役立ち】－「カテゴリから選ぶ」－「Windows の操作」－「バックアップ」

購入時のHDD領域

購入時の HDD は、お客様の選択により次のように設定されています。

通常

HDD	ドライブ (領域)	容量
1 台目	消去禁止領域	約 2.7GB
	C ドライブ	残り
2 台目以降	D ~	1 台につき 1 台すべて

すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。

HDD 設定変更サービスを選択された場合

HDD	ドライブ (領域)	容量
1 台目	消去禁止領域	約 2.7GB
	C ドライブ	購入時に選択された容量
	D ドライブ	残り
2 台目以降	E ~	1 台につき 1 台すべて

すべてのドライブは NTFS ファイルシステムでフォーマットされています。



参考

HDD 設定変更サービス

HDD 設定変更サービスとは、1 台目の HDD の領域を C ドライブ、D ドライブに分割した状態でコンピューターをお届けするサービスのことです。

消去禁止領域とは

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データや、Windows 回復環境 (Windows RE) が設定されています。

この領域は、絶対に削除しないでください。

削除してしまうと、本体ドライバーやソフトウェアのインストールができなくなります。

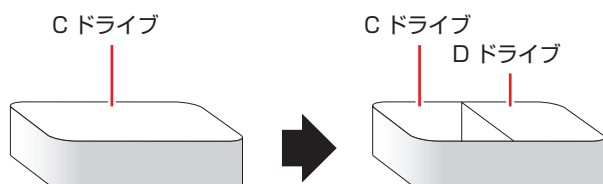
「消去禁止領域」内の本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CD や USB 記憶装置にコピー (バックアップ) することもできます。

p.103 「消去禁止領域のデータをバックアップする」

HDDを分割して使用する


1 台の HDD は、いくつかの領域に分割して、それぞれ別々のドライブとして使用することができます。

例：1 つの HDD 領域 (C ドライブ) を 2 つの HDD 領域 (C ドライブと D ドライブ) に分割することができます。



詳しくは、 p.106 「HDD 領域の変更」をご覧ください。

HDDを増設・交換したら

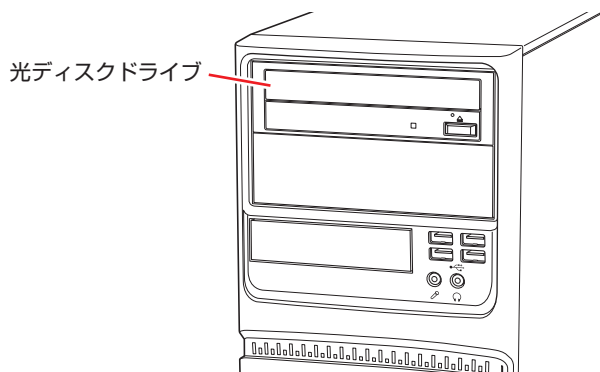
HDD を増設・交換した場合は、 p.106 「HDD 領域の変更」をご覧ください、ドライブの作成を行ってください。



すでにデータが登録されている HDD にドライブを作成すると、その HDD に保存されていたすべてのデータが消失します。ドライブを作成する前に、重要なデータが保存されていないことを確認してください。

光ディスクメディアを使う

本機には、購入時に選択されたシリアル ATA 仕様の光ディスクドライブが搭載されています。光ディスクドライブは、CD-ROM などの光ディスクメディアを使用するための機器です。ここでは、光ディスクドライブの基本的な使い方について説明します。



警告

光ディスクドライブで、ひび割れや変形補修したメディアを使用しないでください。飛び散って、けがをする危険があります。



注意

光ディスクドライブのディスクトレイに手を入れないでください。はさまれると、けがの原因になります。



制限

本機では、CD（コンパクトディスク）の規格に準拠しない「コピーコントロール CD」などの特殊ディスクは、動作保証していません。本機で動作しない特殊ディスクについては、製造元または販売元にお問い合わせください。

使用可能な光ディスクメディア

光ディスクドライブの種類によって、メディアへの書き込みや DVD の再生など、使える機能が異なります。

お使いの光ディスクドライブで使える機能とメディアの種類は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【マニュアルびゅーわ】－「光ディスクドライブ取扱説明書」

光ディスクメディアの違いについての簡単な説明は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」－【お役立ち】

光ディスクメディアのセットと取り出し

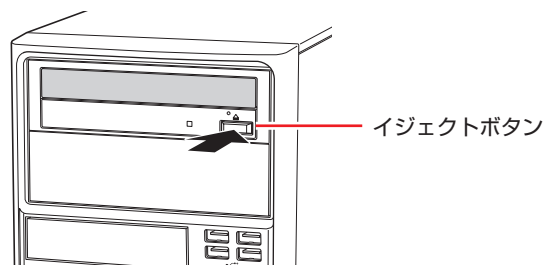
光ディスクメディアのセットと取り出し方法について説明します。

！ 制限

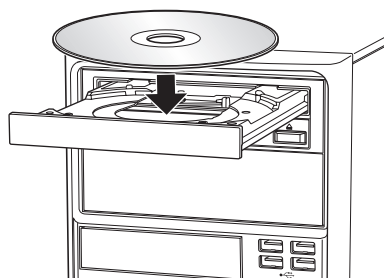
- 光ディスクドライブアクセス中にメディアを取り出したり、本機の電源を切ったり、再起動したりしないでください。
- メディアの出し入れのとき以外は、ディスクトレイの開閉をしないでください。
- 開いているディスクトレイの上に物を置かないでください。また、上から強く押さないでください。
- メディアの再生中や書き込み中に振動や衝撃を与えないでください。
- 結露した状態のメディアを使用しないでください。メディアを寒いところから暖かいところへ急に持ち込むと、結露（水滴が付着する状態）します。使用すると、誤動作や故障の原因になります。
- 本機では、楕円などの通常と異なった形状のメディアは使用できません。

セット方法

- 1 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



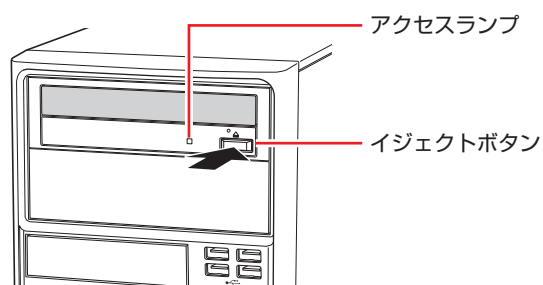
- 2 印刷面を上にして、光ディスクメディアをディスクトレイのくぼみにセットします。



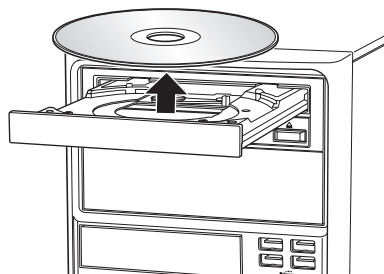
- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。

取り出し方法

- 1 アクセスランプが点滅していないことを確認し、イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを開きます。



- 2 光ディスクメディアをディスクトレイから取り出します。



- 3 イジェクトボタンを押して、ディスクトレイを閉じます。



参考

イジェクトボタンを押してもメディアが取り出せない場合

ソフトウェアによっては、独自の取り出し方法でないとメディアが取り出せないものもあります。詳しくはお使いのソフトウェアのマニュアルをご覧ください。

強制的な光ディスクメディアの取り出し

次のような場合には、強制的に光ディスクメディアを取り出すことができます。

- 光ディスクドライブの動作が不安定になったり、故障したりして、光ディスクメディアが取り出せない場合
- 光ディスクメディアをセットしたまま、本機の電源を切ってしまった場合

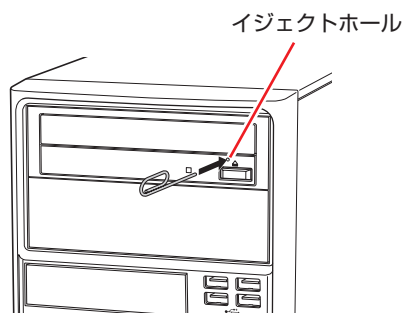
強制的な光ディスクメディアの取り出し方法は次のとおりです。

- 1 本機の電源が入っている場合は、電源を切ります。



- 2** イジェクトホールに先の細い丈夫なもの（ゼムクリップを引きのばしたものなど）を差し込みます。

お使いの光ディスクドライブによりイジェクトホールの位置は異なります。



- 3** ディスクトレイが少し飛び出したら、ディスクトレイを引き出し、光ディスクメディアを取り出します。

CDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データ CD を読み込めるほかに、音楽 CD やビデオ CD、フォト CD などの再生を行うことができます。これらのメディアの中には、再生時に別途専用ソフトウェアが必要なものもあります。

DVDメディアの読み込み・再生

光ディスクドライブでは、データが収録された DVD メディアを読み込めるほかに、DVD VIDEO などの再生ができます。DVD VIDEO の再生には、専用のソフトウェアが必要です。

DVD VIDEO 再生ソフト

DVD VIDEO の再生には、「WinDVD」を使用します。



制限

DVD-ROM ドライブ（再生ソフトなし）を選択された場合、WinDVD は添付されていません。

WinDVD は、次の場所から起動します。

【スタート】 - 【すべてのプログラム】 - 【Inter Video WinDVD】 - 【Inter Video WinDVD for EPSON】

WinDVD の詳しい使用方法は、WinDVD のヘルプをご覧ください。

DVD VIDEO 再生時の不具合

WinDVD で DVD VIDEO の再生をすると、次のような不具合が発生する場合があります。

- 解像度や色数、リフレッシュレートの設定により、DVD VIDEO の再生ができないことがあります。
DVD VIDEO の再生ができない場合は、解像度や色数、リフレッシュレートを調節してみてください。

 p.26 「表示に関する各種設定」

- ディスプレイを 2 台接続して、クローン（ミラー）表示をしていると、「使用しているディスプレイ環境は保護されているコンテンツの再生をサポートしていません。」というメッセージが表示され、DVD VIDEO の再生が中断されます。このような場合は、クローン（ミラー）表示を無効にしてください。

CPRM で著作権保護されたメディアを再生するには

CPRM で著作権保護されたメディアを再生する場合は、インターネットに接続した状態で、「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストールを行ってください。

「CPRM Pack」のダウンロードとインストール

インストールには、CPRM で著作権保護されたメディアが必要になります。
「CPRM Pack」のダウンロードおよびインストール手順は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「すべてのプログラム」 - 「InterVideo WinDVD」 - 「InterVideo WinDVD for EPSON」をクリックし、WinDVD を起動します。
- 2** CPRM で著作権保護されたメディアを光ディスクドライブにセットします。
- 3** 「CPRM のサポートが有効になっていないため、CPRM コンテンツを再生できません。・・・」と表示されたら、[OK] をクリックします。
- 4** 「コーレル CPRM Pack ダウンロード用登録ページへようこそ」と表示されたら、画面に従って登録を行います。
メンバー登録が終了すると、ダウンロードページが表示されます。
- 5** ダウンロードページが表示されたら、画面の指示に従って、「CPRM Pack」のダウンロードとインストールを実行します。

CPRM で著作権保護されたメディア再生時の制限事項

CPRM で著作権保護されたメディアの再生には、次の制限事項があります。

- 管理者（Administrator）のアカウントでログオンしてください。
- 映像をデジタル出力する場合は、HDCP 規格に対応したディスプレイをご使用ください。
- 2 台のディスプレイに同じ画面を表示するクローン（ミラー）表示はできません。

WinDVD ユーザーサポート情報

WinDVD に関するお問い合わせは、下記にご連絡ください。
※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

ホームページ : <http://www.corel.jp/>
サポートホームページ : <http://www.corel.jp/support/>
電話 : 03-3544-8179
サポート時間 平日 10:00 ~ 12:00 13:30 ~ 17:30
(土・日・祝日・夏季・年末年始・特定休業日を除く)

メールでのお問い合わせは、サポートホームページに掲載されているメールフォームからご利用いただけます。

WinDVD のよくある問い合わせ (FAQ) もサポートホームページに掲載しております。

コーレル株式会社

光ディスクメディアへの書き込み

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

書き込み機能のある光ディスクドライブでは、データ、音楽、画像などを光ディスクメディアに書き込むことができます。

書き込み可能なメディアは、お使いの光ディスクドライブにより異なります。書き込み可能なメディアについては、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 - 「マニュアルびゅうわ」 - 「光ディスクドライブ取扱説明書」



制限

作成した DVD VIDEO は、一部の DVD プレイヤーでは再生できない場合があります。

ライティングソフト

光ディスクメディアに書き込みを行う場合は、専用のライティングソフトが必要です。本機にはライティングソフト「Nero Multimedia Suite 10 Essentials」が添付されています。

 p.21 「Nero Multimedia Suite 10 Essentials の使い方」

書き込み時の注意

書き込みを行う場合は、次の点に注意してください。

●省電力機能を無効にする

メディアへの書き込み時に、Windows が省電力状態に切り替わると、データ転送エラーが起き、書き込みに失敗して、メディアに記録したデータが失われたり、メディアが使用できなくなる可能性があります。

書き込みを始める前に、省電力状態に移行しないように設定してください。

 p.45 「時間経過で移行させない」

省電力状態に移行する場合は、必ず光ディスクドライブからメディアを取り出してから行ってください。

●速度に対応した光ディスクメディアを選ぶ

書き込みを行う場合は、お使いの光ディスクドライブの書き込み速度に対応したメディアを使用してください。

光ディスクドライブの書き込み速度は、次をご覧ください。



「PC お役立ちナビ」 – 【マニュアルびゅーわ】 – 「光ディスクドライブ取扱説明書」

Nero Multimedia Suite 10 Essentialsの使い方

書き込み機能のある光ディスクドライブ搭載時

ライティングソフト「Nero Multimedia Suite 10 Essentials」を使用すると、光ディスクメディアにデータや音楽、画像などのファイルを書き込むことができます。



制限

「Nero Multimedia Suite 10 Essentials」とWindows 7 標準の書き込み機能を同時に使用しないでください。

使い方

書き込みは「Nero Express」で行います。

Nero Express は次の場所から起動します。

【スタート】 – 「すべてのプログラム」 – 「Nero」 – 「Nero 10」 – 「Nero Express」

Nero Express の詳しい使用方法は、ヘルプをご覧ください。

Nero Multimedia Suite 10 Essentials ユーザーサポート情報

Nero Multimedia Suite 10 Essentials のサポートについて説明します。

サポートセンターに連絡する前に

Nero Multimedia Suite 10 Essentials の操作などでお困りの場合は、サポートセンターに連絡する前に、まずヘルプやホームページのサポート情報をご覧ください。

<http://www.nero.com/jpn/support.html>

サポートセンターに問い合わせる

ヘルプ、ホームページのサポート情報を見ても問題が解決しない場合は、下記にお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

株式会社 Nero サポートセンター

受付時間 : 10:00 ~ 12:30/13:30 ~ 17:00
月～金曜日（祝、特定休業日を除く）

TEL : 045-910-0255

ホームページ : <http://www.nero.com/jpn/support-nero10.html>

E-MAIL : 上記ホームページのサポートページからお問い合わせください。

※お問い合わせの際は、パソコンの機種名をお知らせいただく必要があります。

USB 機器を使う


本機には USB2.0 に対応した USB コネクタが、前面に 4 個、背面に 4 個、合計 8 個搭載されています。

USB コネクタには USB 対応の機器を接続します。8 個の USB コネクタは同じ機能ですので、どのコネクタを使用しても構いません。

！ 制限

- USB フラッシュメモリーや USB HDD などの USB 記憶装置を接続していたり、USB FDD に FD がセットされている状態で本機の電源を入れると、Windows が起動しないことがあります。USB 記憶装置は、Windows 起動後に接続してください。

USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動したい場合は、「BIOS Setup ユーティリティ」で起動するデバイスの順番を変更してください。

 p.89 「起動 (Boot) デバイスの順番を変更する」

- 接続した USB 機器によっては、本機の電源を切った状態でも、ランプが光り続けます。これは、お使いの USB 機器の仕様です。

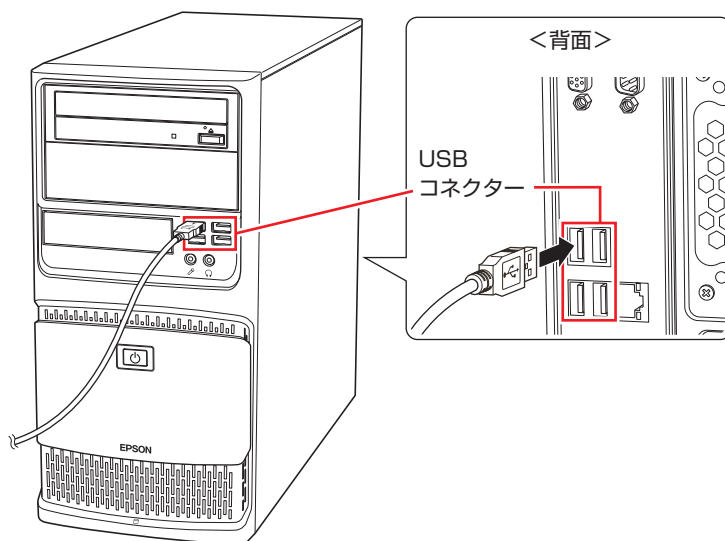
USB機器の接続と取り外し

USB 機器の接続・取り外しは、本機の電源が入っている状態で行うことができます。

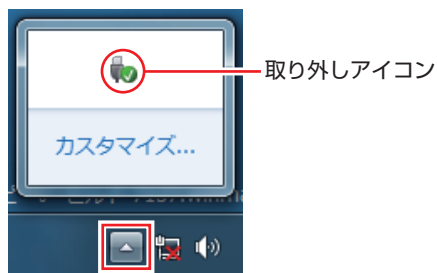
接続

USB 機器の接続方法は、次のとおりです。

- 1 USB 機器の USB コネクタを、本機の USB コネクタ () に接続します。



- 2** USB 機器によっては、「通知領域」 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されます。



接続する USB 機器によっては、専用のデバイスドライバーが必要です。詳しくは USB 機器のマニュアルをご覧ください。

取り外し

USB 機器の取り外しは、コンピューターの状態を確認して、次のどちらかの方法で行います。

●そのまま取り外す

通知領域 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されていない場合や、本機の電源を切った場合はそのまま取り外せます。

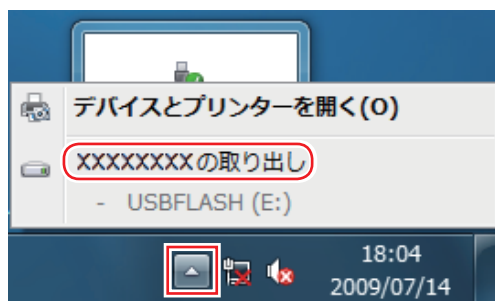
●USB 機器の終了処理をして取り外す

通知領域 - [△] 内に「取り外し」アイコンが表示されている場合は、終了処理を行います。

USB 機器の終了方法は次のとおりです。

- 1** 「通知領域」 - [△] - 「取り外し」アイコン - 「(取り外したい USB 機器) の取り出し」をクリックします。

複数の機器が表示される場合は、別の機器を選択しないよう注意してください。



- 2** 「ハードウェアの取り外し」メッセージが表示されたら、USB 機器を本機から取り外します。

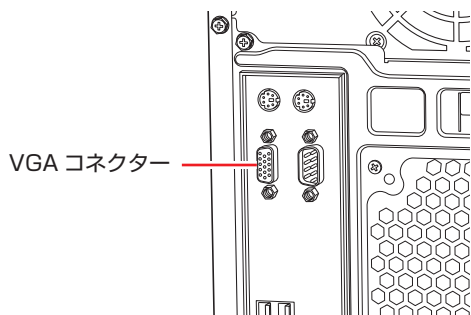
画面表示機能

本機のマザーボード上には画面表示機能が搭載されています。
ここでは、接続できるディスプレイや解像度などの設定方法について説明します。

※ オプションで ADD2 ボードやビデオボードを選択された場合は、ボードのマニュアル (PDF) をご覧ください。

ディスプレイの接続

本機背面には、標準で VGA コネクタが搭載されています。
ディスプレイの VGA ケーブルを接続すると、画像がアナログ出力されます。



表示できる解像度と表示色

本機の画面表示機能で表示可能な解像度と表示色は、次のとおりです。

●解像度 ピクセル (横×縦)

- 800 × 600
 - 1024 × 768
 - 1280 × 720 *
 - 1280 × 768 *
 - 1280 × 1024
 - 1360 × 768 *
 - 1366 × 768 *
 - 1440 × 900 *
 - 1600 × 1200
 - 1680 × 1050 *
 - 1920 × 1080 *
 - 1920 × 1200 *
- * ワイド表示

●表示色

- 中 (16ビット) / 最高 (32ビット)

制限

- 記載している解像度は、本機に搭載されたビデオコントローラーの出力解像度です。接続するディスプレイの仕様によっては、表示できない場合があります。
- 解像度や表示色が高いと、動画再生ソフトで動画を再生するときに、正常に表示できないことがあります。そのような場合は、解像度または表示色を下げてください。

表示に関する各種設定

画面表示に関する設定は次の場所で行います。

デスクトップ上の何も無いところで右クリック→「画面の解像度」



サウンド機能

本機のマザーボード上には、サウンド機能が搭載されています。

本機にスピーカーは内蔵されていません。音声を出力するには、スピーカーを接続する必要があります。

オーディオ機器の接続

本機の前面と背面には、オーディオ機器を接続するためのコネクタが搭載されています。各コネクタの位置は、次のとおりです。

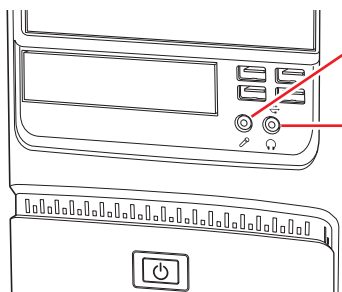



注意


ヘッドホンやスピーカーは、ボリュームを最小にしてから接続し、接続後に音量を調節してください。

ボリュームの調節が大きくなっていると、思わぬ大音量が聴覚障害の原因となります。

前面側



●マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。

●ヘッドホン出力コネクタ 
スピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。





参考


使用できるマイク

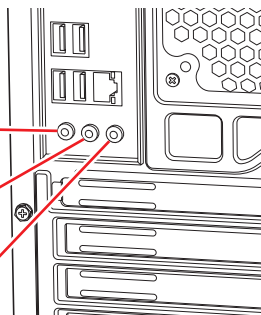
マイク入力コネクタに接続して使用できるマイクは、プラグインパワー対応のコンデンサーマイクです。

背面側

●マイク入力コネクタ 
マイクを接続して音声を入力します。

●ライン出力コネクタ 
スピーカーやヘッドホンを接続して音声を出力します。

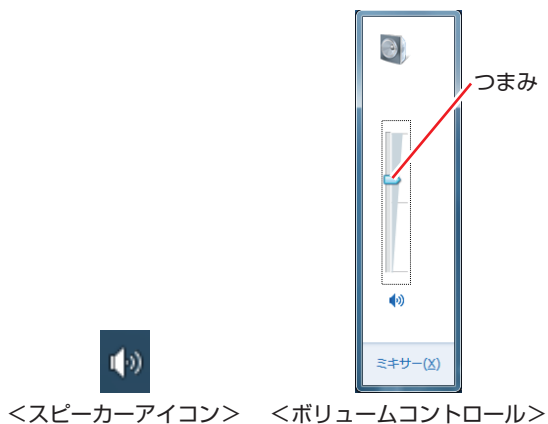
●ライン入力コネクタ 
オーディオ機器を接続して音声を入力します。



音量の調節

スピーカーを接続して、Windows 起動時に音が鳴らなかったり、音が小さすぎたり、大きすぎたりする場合は、次の方法で音量を調節します。

画面右下の通知領域に表示されている「スピーカー」アイコン(白色)をクリックすると、「ボリュームコントロール」が表示されます。つまみを上下にドラッグして調節します。



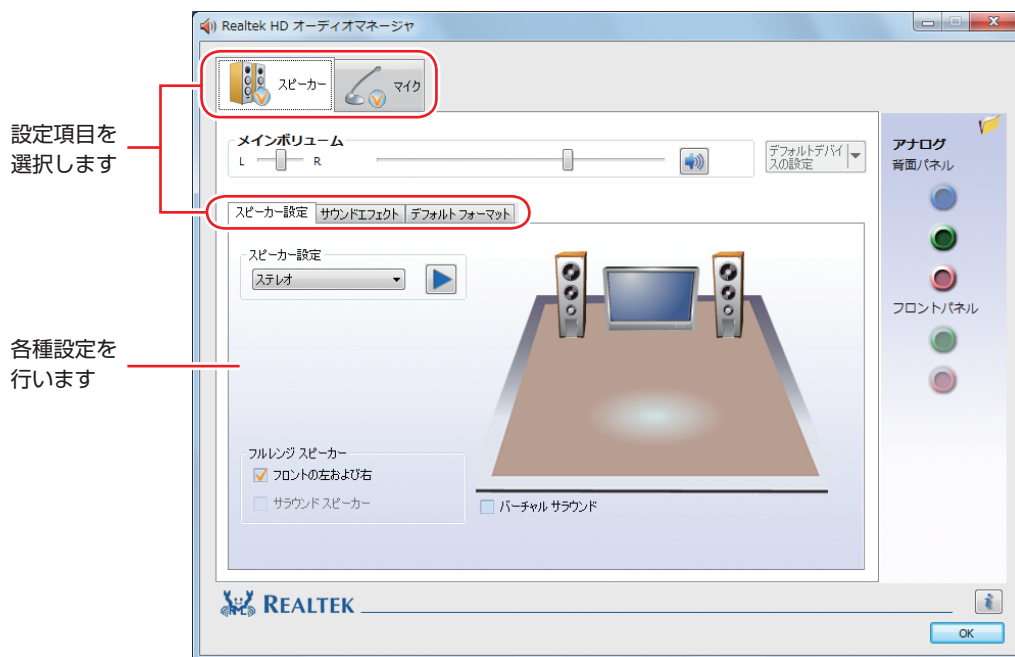
サウンドユーティリティを使う

サウンドユーティリティを使用すると、スピーカーの設定やマイク音量の設定、音響効果の設定などができます。

サウンドユーティリティを起動するには、通知領域 - [△] 内の「Realtek HD オーディオマネージャ」アイコン (赤色) をダブルクリックします。



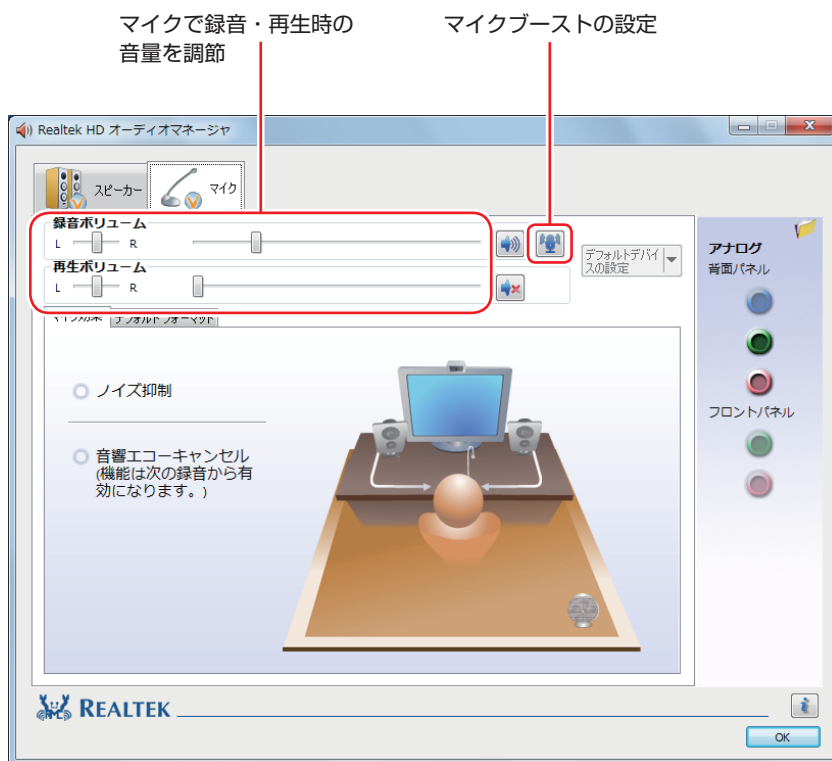
次の画面が表示されます。



※「スピーカー」、「マイク」タブは、機器接続時のみ表示されます。

マイク使用時の音量調節

本機にマイクを接続して使用する場合、マイクの音量調節はサウンドユーティリティの「マイク」タブで行います。



※「スピーカー」、「マイク」タブは、機器接続時のみ表示されます。

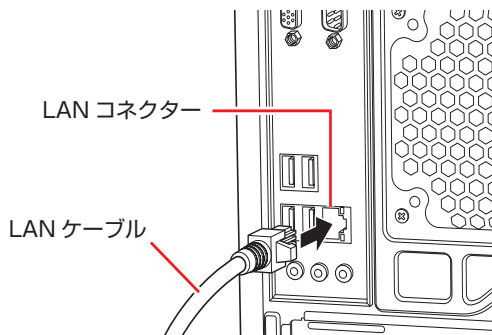
録音時に音量を調節しても音が小さいときは、 をクリックしてマイクブーストのつまみを右へスライドさせ、音量を上げてください。

ネットワーク機能（有線 LAN）

本機のマザーボード上には、1000 Base-T/100 Base-TX/10 Base-Tに対応したネットワーク機能（有線 LAN）が搭載されています。

ネットワーク機能を使用すると、ネットワークを構築したり、インターネットに接続したりすることができます。

ネットワーク機能を使用する場合は、本機背面の LAN コネクタ（) に市販の LAN ケーブルを接続します。




ネットワークの構築

ネットワークを構築するには、ほかのコンピューターと接続するために、LAN ケーブルやハブ（サーバー）などが必要です。そのほかに、Windows 上でネットワーク接続を行うためには、プロトコルの設定なども必要になります。

ネットワークの構築方法は、ネットワーク機器のマニュアルなどをご覧ください。

！ 制限

- ネットワークに接続している場合に、省電力状態になると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は次のいずれかの方法をとってください。
 - 再起動する
 - 省電力状態に移行しないように設定する
 p.45 「時間経過で移行させない」
- ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行すると、正常に通常の状態へ復帰できない場合があります。
- 本機のネットワーク機能では、リピーター・ハブを使用できません。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は、プロバイダーから提供されたマニュアルを参照して行ってください。

そのほかの機能

本機では、ネットワークを構築して接続環境を整えると、次の機能を使用できます。

- Wakeup On LAN
- リモートブート

Wakeup On LAN

Wakeup On LAN を使用すると、ネットワークからの信号により本機を起動することができます。

シャットダウン状態から起動させる



制限

シャットダウン状態からの起動は、Windows を正常に終了した状態でないと行えません。

シャットダウン状態から Wakeup On LAN を行う場合は、次の設定が必要です。


- BIOS の設定変更
- ネットワークアダプターの設定変更

BIOS の設定変更

「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を有効にしてください。

「Power」メニュー画面－「APM Configuration」

「Power On By PCIE Devices」：[Enabled]（有効）

 p.79 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

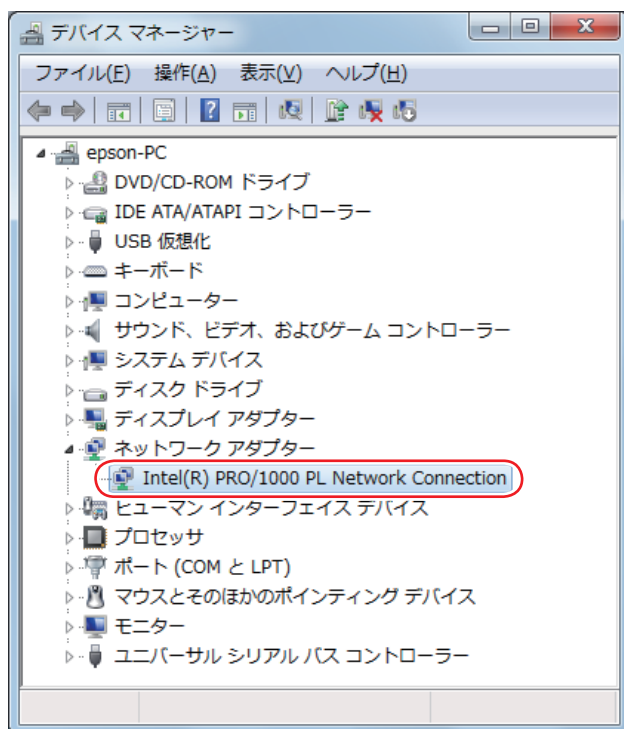
 p.95 「Power メニュー画面」

ネットワークアダプターの設定変更

ネットワークアダプターの設定を変更する方法は、次のとおりです。

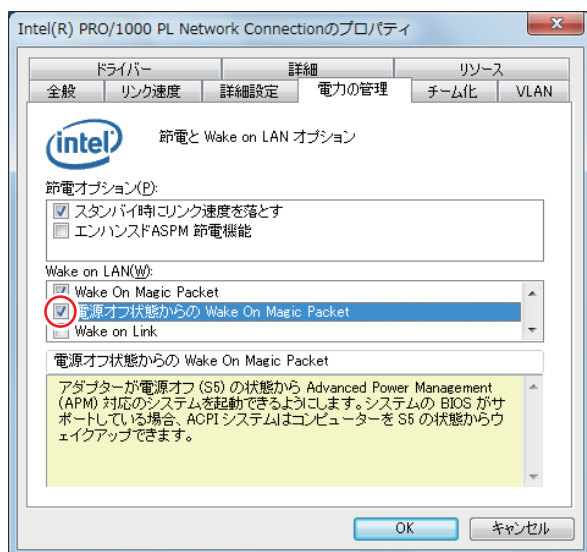
- 1** [スタート]－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「デバイスマネージャー」をクリックします。

- 2** 表示された「デバイスマネージャー」の「ネットワークアダプター」をダブルクリックし、「Intel (R) PRO/1000・・・」をダブルクリックします。



- 3** 表示された「Intel (R) PRO/1000・・・」画面の「電力の管理」タブをクリックします。

- 4** 「電源オフ状態からの Wake On Magic Packet」にチェックを入れて [OK] をクリックします。



5  をクリックし、開いている画面をすべて閉じます。

これで、設定は完了です。



WakeUp On LAN を設定している場合

BIOS の設定で、WakeUp On LAN (Power On By PCIE Devices) が有効に設定されているときに、電源コードを抜き、再び接続するとコンピューターが一瞬起動する場合があります。これは、不具合ではありません。

リモートブート

リモートブートを使用すると、ネットワークを介して、あらかじめセットアップされたサーバー上から Windows をインストールすることができます。

インターネットを使用する際のセキュリティー対策

本機には、インターネットに接続した際に起こりうる、コンピューターウイルス感染や不正アクセスなどの危険に対する、セキュリティー機能が備えられています。

ここでは、このセキュリティー機能について説明します。インターネットに接続する場合は、コンピューターの安全を守るため、必ずセキュリティー対策を行ってください。

Windows Update

「Windows Update」は、本機の Windows の状態を確認し、Windows の更新プログラムをインターネットからダウンロードしてインストールする機能です。

Windows を最新の状態にするため、Windows Update を行ってください。

自動更新の設定

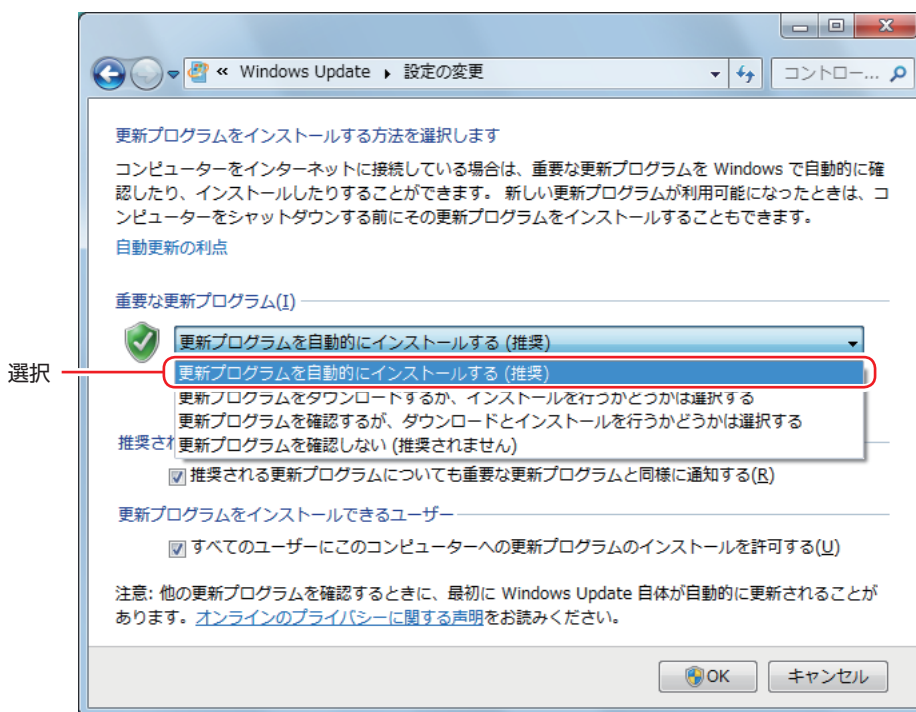
本機を使用する際は、自動で Windows Update が行われるように、自動更新の設定をすることをおすすめします。

自動更新の設定がされていると、更新プログラムのダウンロードとインストールが自動で行われます。

Windows のセットアップ中に「コンピューターの保護と…」画面で「推奨設定を使用します」を選択した場合は、自動更新の設定がされています。そのまま使用してください。

自動更新の設定は、次の場所で行います。

〔スタート〕－〔すべてのプログラム〕－〔Windows Update〕－〔設定の変更〕



セキュリティソフトウェア


インターネットに接続する場合は、コンピューターウイルス感染や不正アクセスを防ぐため、セキュリティソフトウェアを必ず使用してください。

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使う

本機には、ファイアウォールやウイルス対策機能を備えた「マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版」がインストールされています。

※ 購入時の選択によっては、インストールされていません。

マカフィー・PC セキュリティセンターのユーザー登録

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を使用するには、ユーザー登録が必要です。インターネットに接続後、画面右下、通知領域の McAfee アイコン () をダブルクリックして、ユーザー登録を行ってください。



制限

ユーザー登録を行わないと、製品の更新ができません。また、サポートセンターへの問い合わせにもユーザー登録が必要です。登録しないまま 2 週間以上が経過すると、ソフトウェアの自動更新が停止し、最新のセキュリティで保護されなくなります。

マカフィー・PC セキュリティセンターの使用方法

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の使用方法は、「ヘルプ」をご覧ください。



Windows のセキュリティー機能の設定

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版には Windows のセキュリティー機能と同等の機能が備えられています。マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版がインストールされていると、次の Windows の機能は「無効」に設定されます。

- Windows ファイアウォール
- Windows Defender

マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の機能によりコンピューターのセキュリティーは守られていますので、Windows の機能は「無効」のままお使いください。

マカフィー・PC セキュリティセンターを一時的に無効にするには

お使いのソフトウェアなどで、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版を「無効」にするよう指示があった場合は、一時的にマカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版の機能を「オフ」にします。手順は、「ヘルプ」で確認してください。

機能を「オフ」にすると、セキュリティーが確保されなくなります。安全を十分に確認した上で設定し、作業が終わったら、必ず「オン」に戻してください。

マカフィー・PC セキュリティセンターのアンインストール

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合や、お使いのソフトウェアなどで指示があった場合には、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をアンインストールします。アンインストール方法は、次のとおりです。

- 1** [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「プログラムのアンインストール」をクリックします。
- 2** 「プログラムのアンインストールまたは変更」と表示されたら、「マカフィーセキュリティセンター」を選択して [アンインストールと変更] をクリックします。
- 3** 「McAfee ソフトウェアを削除」と表示されたら、削除するプログラムを選択し、[削除] をクリックします。
- 4** 「警告」と表示されたら、内容を確認し、[削除] をクリックします。
- 5** 「ソフトウェアが削除されました。」と表示されたら、[今すぐ再起動] をクリックします。

コンピューターが再起動したら、アンインストールは完了です。

90 日期間限定版（無料体験版）が期限切れしたら


マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版には、一定の有効期間（製品使用開始から 90 日間）が設定されています。

有効期限が切れた場合は、定義ファイルの更新やソフトウェアの自動バージョンアップが行われなくなるため、最新のウイルスやスパイウェアなどの脅威に対応することができなくなり、大変危険です。

90 日期間限定版の有効期限が切れた場合は、有効期限の継続手続きを行うことをおすすめします。更新は有償になります。

更新手続きを行うことにより、最新の脅威に対応できるようになります。

マカフィー・PC セキュリティセンターの再インストール

Windows の再インストールをしたら、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をインストールします。インストール方法は、『ユーザーズマニュアル』をご覧ください。

マカフィー製品のサポート

正しく動作しない場合など、マカフィー製品に関するご相談については、下記へお問い合わせください。

※下記のサポート情報は、予告なく変更される場合があります。

●マカフィー・インフォメーションセンター

マカフィー製品購入前のマカフィー製品に関するお問い合わせ

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/home/info_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-010-220

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-1899

受付時間 9:00 ~ 17:00（土・日・祝祭日を除く）

●マカフィー・カスタマーオペレーションセンター

対応内容登録方法に関するご相談やお客さま登録情報の変更など

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/cs_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-030-088

IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-1792

受付時間 9:00 ~ 17:00（土・日・祝祭日を除く）

●マカフィー・テクニカルサポートセンター

対応内容ソフトウェアの操作方法や不具合などの技術的なお問い合わせ

マカフィー・サポート Web

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/>

マカフィー・チャットサポート

<http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/chat.asp>

E-mail によるお問い合わせフォーム

http://www.mcafee.com/japan/mcafee/support/supportform_redirect.asp

電話ナビダイヤル : 0570-060-033


IP 電話、光電話の場合 : 03-5428-2279

受付時間 9:00 ~ 21:00 (年中無休)

(FAX によるお問い合わせは受け付けておりません)

市販のセキュリティーソフトウェアを使う

市販のセキュリティーソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、マカフィー・PC セキュリティセンター 90 日期間限定版をアンインストール (削除) してください。

 p.37 「マカフィー・PC セキュリティセンターのアンインストール」

Webフィルタリングソフトウェア

Web フィルタリングとは、インターネット上の有害なサイトを表示しないようにするための技術です。Web フィルタリングを行うと、有害サイトへのアクセスを自動的に制限することができます。

i-フィルター 30 日版を使う

本機には、Web フィルタリング機能を持つ「i-フィルター 30 日版」が添付されています。家庭内でお子様がコンピューターを使用する際に、有害なサイトへアクセスするのを制限したいときなどは、i-フィルター 30 日版を使用することをおすすめします。

i-フィルター 30 日版のインストール

i-フィルター 30 日版のインストール方法は、[別冊](#)『ユーザーズマニュアル』をご覧ください。市販の Web フィルタリングソフトウェアを使用する場合は、ソフトウェア同士の競合を防ぐため、i-フィルター 30 日版はインストールしないでください。

i-フィルター 30 日版のユーザー登録

i-フィルター 30 日版を使用するには、ユーザー登録が必要です。ユーザー登録はインターネットに接続した状態で行います。ユーザー登録の方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。



<i-フィルターアイコン>

- 2** 「i-フィルター ……」画面が表示されたら、「使用許諾契約及び個人情報の取り扱いについて」をよくお読みになり、「[i-フィルター…] お試し版を登録する」をクリックします。
- 3** 「[i-フィルター] の開始」と表示されたら、以降は画面の指示に従ってユーザー登録を行ってください。

i-フィルター 30 日版の使用方法

i-フィルター 30 日版をインストールすると、フィルター設定が有効になり、有害サイトにアクセスしようとする時、自動的にブロックされます。

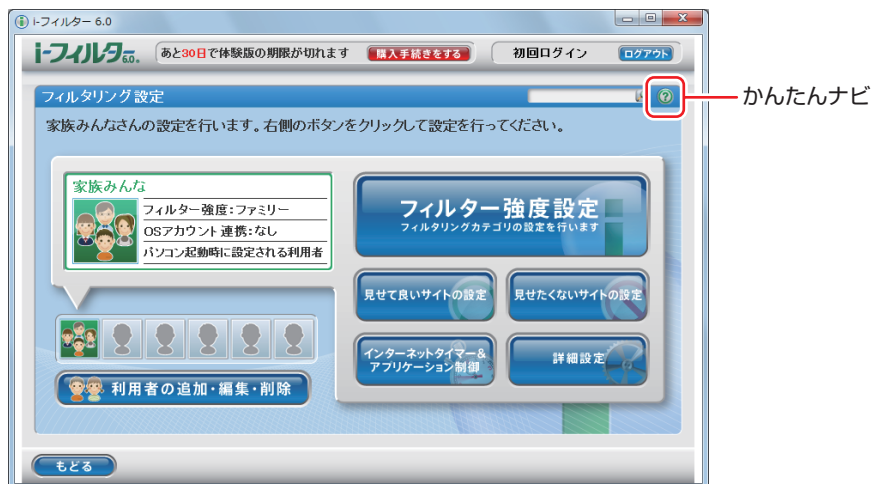
初期設定では、フィルター強度は「ファミリー」です。フィルター強度は、利用者別に設定できます。必要に応じて、「フィルタリング設定」画面で設定を変更してください。

「フィルタリング設定」画面の表示方法は、次のとおりです。

- 1** デスクトップ上の「i-フィルター」アイコンをダブルクリックします。
- 2** ログイン画面が表示されたら、E-Mail アドレスと管理パスワードを入力して【ログイン】をクリックします。
- 3** i-フィルターのトップページが表示されたら、「フィルタリング設定」をクリックします。

「フィルタリング設定」画面が表示されます。

i-フィルター 30 日版の詳しい使用方法は、「かんたんナビ」をご覧ください。



参考

ファイアウォール機能による警告画面が表示された場合は

セキュリティーソフトウェアのファイアウォール機能を有効にしている場合、インターネット閲覧時に「i-フィルター 30 日版」でのインターネットアクセスに関する警告が表示されることがあります。


この場合は、「i-フィルター 30 日版」の使用を許可してください。

i-フィルター 30 日版の利用期限

i-フィルター 30 日版の利用期限は、ユーザー登録後 30 日間です。利用期限が過ぎると、フィルター機能が停止します。

継続して利用する場合

継続利用の手続き（有償）をオンラインで行ってください。

 p.42 「i-フィルター 30 日版のサポート」




本機に添付の i-フィルター 30 日版は、「i-フィルター更新パック」で継続利用
手続きを行うことはできません。

継続して利用しない場合

i-フィルター 30 日版のアンインストールを行ってください。

i-フィルター 30 日版のアンインストール方法は、デジタルアーツ社のホームページの「よくある質問」をご覧ください。

 p.42 「i-フィルター 30 日版のサポート」

i-フィルター 30 日版のサポート

i-フィルター 30 日版のサポートは、デジタルアーツ社で行います。

よくあるご質問と回答・サポート窓口・継続利用手続き・サービスページなどについては、デジタルアーツ社の次のホームページをご覧ください。

なお、このサポート情報は、予告なく変更される場合があります。



<http://www.daj.jp/cs/support.htm>

省電力機能

本機を使用していない間、省電力状態にしておくことで、電力の消費を抑えることができます。ここでは、省電力状態に移行する方法や、省電力状態からの復帰方法について説明します。

省電力状態へ移行する際の注意

省電力状態に移行する際には、次のような注意事項があります。移行する前に確認して正しくお使いください。

- 省電力状態に移行する場合は、万一正常に復帰しない場合に備え、使用中のデータ（作成中の文書やデータなど）は保存しておいてください。
- 次のような場合は、省電力状態に移行しないことがあります。
 - ・周辺機器を接続している
 - ・ソフトウェアを起動している
- 次のような場合に省電力状態に移行すると、不具合が発生する可能性があります。省電力状態に移行しないように設定してください。
 p.45 「時間経過で移行させない」
 - ・光ディスクメディアへの書き込み時：書き込みに失敗する可能性
 - ・サウンド機能で録音、再生時：録音や再生が途中で切断される可能性
 - ・外部接続記憶装置（USB FDD など）へのデータ書き込み時：データ破損の可能性
 - ・ネットワーク機能を使つての通信時：通信が切断される可能性
 - ・動画再生時：コマ落ちしたりソフトウェアの動作が遅くなるなどの現象が発生する可能性
- 次のような場合は、省電力状態から正常に復帰できないことがあります。
 - ・省電力状態で周辺機器などの抜き差しを行った場合
 - ・ネットワーク上のファイルなどを開いたまま省電力状態に移行した場合
- ネットワークに接続している場合に、省電力状態に移行すると、省電力状態からの復帰時にサーバーから切断されてしまうことがあります。
このような場合は、次のいずれかの方法をとってください。
 - ・再起動する
 - ・省電力状態に移行しないように設定する
 p.45 「時間経過で移行させない」

省電力状態の種類

省電力状態には、主に次のようなものがあります。

- ディスプレイの電源を切る
省電力の効果はスリープより低いですが、通常の状態にすぐに復帰できます。
- スリープ
作業中の内容を一時的に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが緑色に点滅します。通常の状態へは数秒で復帰できます（使用環境により復帰時間は異なります）。
スリープには次の2つがあり、作業中の内容の保存方法が異なります。

- ハイブリッドスリープ (初期値)
スリープと休止状態を合わせた状態です。
作業中の内容はメモリーと HDD の両方に保存されます。
- スリープ
作業中の内容はメモリーのみに保存されます。

● 休止状態

作業内容を HDD に保存し、コンピューターを低電力の状態にします。ディスプレイの電源が切れ、電源ランプが消灯します。シャットダウン状態からよりも早く通常の状態へ復帰できます (使用環境により復帰時間は異なります)。

休止状態を有効にする

本機では、休止状態が無効に設定されています。休止状態を有効にするには設定を行ってください。

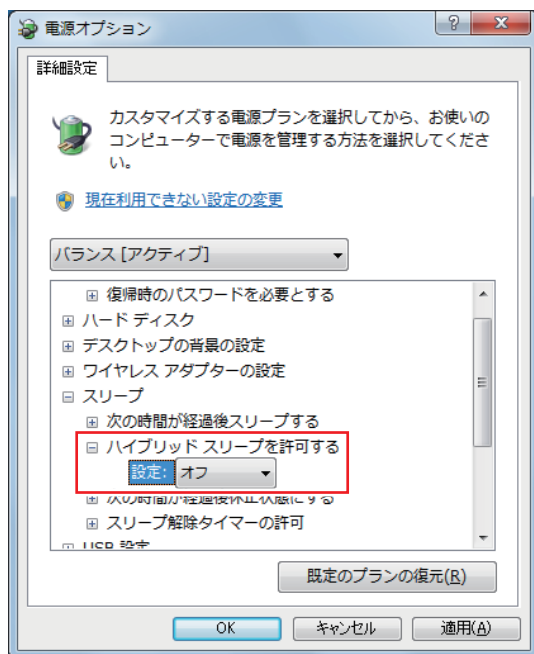


休止状態を有効にすると、スリープの状態がハイブリッドスリープからスリープに変わります。

p.43 「省電力状態の種類」

休止状態を有効にする方法は次のとおりです。

- 1** [スタート] - 「コントロールパネル」 - 「システムとセキュリティ」 - 「電源オプション」 で、休止状態を有効にしたいプランの「プラン設定の変更」をクリックし、「詳細な電源設定の変更」をクリックします。
- 2** 「スリープ」 - 「ハイブリッドスリープを許可する」を「オフ」に設定します。
- 3** [OK] をクリックします。



省電力状態に移行する方法

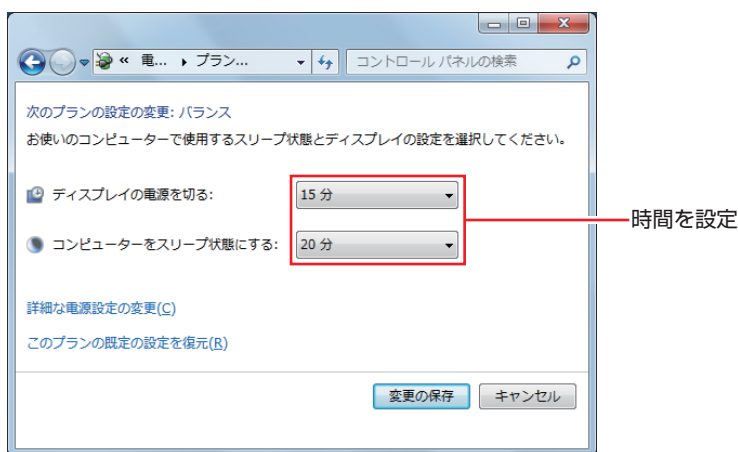
本機を省電力状態にするには、時間経過で移行する方法と直ちに移行する方法があります。

時間経過で移行する

コンピューターを操作しない状態で時間が経過すると、本機は自動的に省電力状態に移行します。初期値ではまずディスプレイの電源が切れ、そのまま操作しないと続いてコンピューターがスリープになります。

省電力状態に移行する（ディスプレイの電源を切る、コンピューターをスリープ状態にする）までの時間は、次の場所を変更することができます。

【スタート】－「コントロールパネル」－「システムとセキュリティ」－「電源オプション」－各プランの「プラン設定の変更」



時間経過で移行させない

光ディスクメディアに書き込む場合などは、時間経過で省電力状態に移行する設定を無効にします。時間をすべて「なし」に設定してください。

直ちに移行する

次の操作をすると、本機はすぐに省電力状態に移行します。

操作	省電力状態の種類
【スタート】－[>] から項目を選択する	スリープ、休止状態*

*購入時は表示されません。



電源ランプの表示

本機の電源の状態は、電源ランプで確認できます。

電源の状態	電源ランプの表示
通常	点灯（緑色）
ディスプレイの電源切	点灯（緑色）
スリープ	点滅（緑色）
休止状態	消灯
シャットダウン（電源切）	消灯


省電力状態からの復帰方法

本機を省電力状態から通常の状態に復帰させる方法は、次のとおりです。

省電力状態	電源ランプの表示	復帰方法
ディスプレイの電源切	点灯（緑色）	マウスやキーボードを操作する
スリープ	点滅（緑色）	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● USB キーボードを操作する● USB マウスでクリックする● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す (BIOS の設定が必要です  p.11)
休止状態	消灯	<ul style="list-style-type: none">● 電源スイッチを押す● PS/2 キーボードの Ctrl + Esc を押す (BIOS の設定が必要です  p.11)




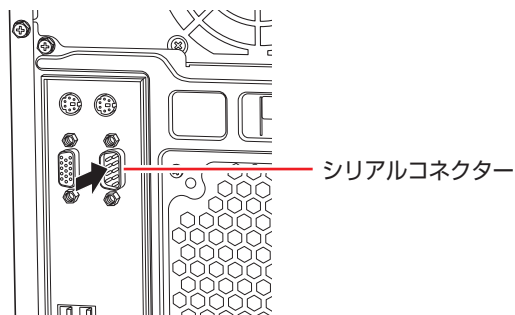
制限

本機では、キーボードの「 キー」は使用できません。

その他の機能

シリアルコネクター

本機背面にはシリアルコネクター（）が 1 個搭載されています。シリアルコネクターには、シリアルコネクターに対応した機器（マウスやターミナルアダプターなど）を接続します。



本機のシリアルポートは、COM1 に設定されています。本機ではシリアルポートで使用するアドレスや割り込み信号を変更することができます。

通常はシリアルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

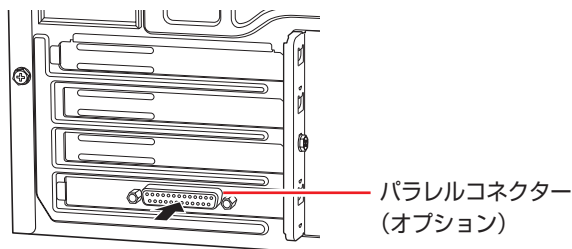
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Serial Port1 Address」

 p.79 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.93 「Advanced メニュー画面」


パラレルコネクター(オプション)

本機購入時にオプション選択された場合、本機背面にはパラレルコネクターが 1 個搭載されています。パラレルコネクターには、パラレルコネクターに対応した機器（プリンターやスキャナーなど）を接続します。



本機ではパラレルポートの機能や使用するアドレスを変更することができます。通常はパラレルポートの設定を変更する必要はありません。使用する周辺機器で指示がある場合には、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の項目を変更してください。

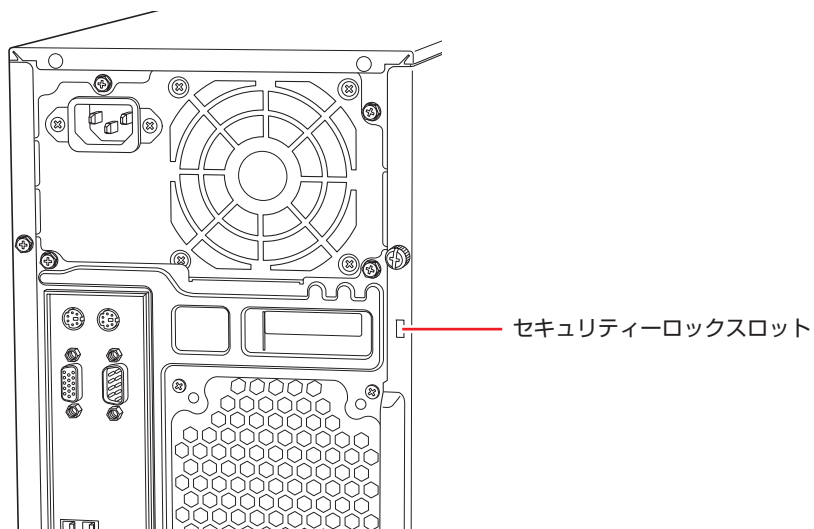
「Advanced」メニュー画面 - 「Onboard Devices Configuration」 - 「Parallel Port Address」

 p.79 「BIOS Setup ユーティリティの操作」

 p.93 「Advanced メニュー画面」

セキュリティーロックスロット

本機背面には、セキュリティーロックスロットが搭載されています。ここには、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り付けます。



当社では、専用の盗難抑止ワイヤー（セキュリティーロック）を取り扱っています。詳しくは当社のホームページをご覧ください。

ホームページのアドレスは次のとおりです。

<http://shop.epson.jp/>

2

装置の増設・交換

拡張ボードや 5.25 型ドライブ (光ディスクドライブ)、3.5 型ドライブ (HDD) の増設・交換方法について記載しています。

増設・交換できる装置	50
作業時の注意	51
装置装着時の準備作業	52
拡張ボードの装着	57
ドライブ装置とコネクタの接続	63
5.25 型ドライブの装着	66
3.5 型ドライブの装着	70
コンピューター内部のケーブル接続	75

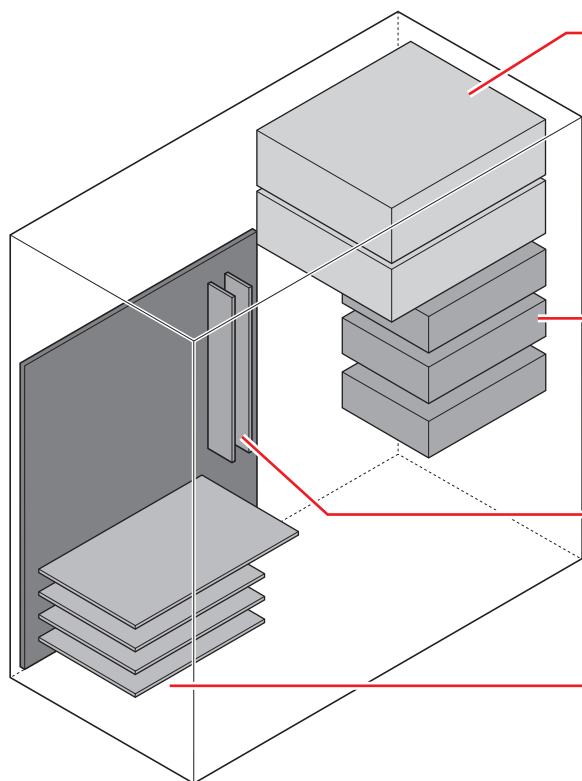
増設・交換できる装置

本機では、次の装置を増設・交換することができます。

ただし、購入時の選択によっては、すでにいくつかの装置が装着されているため、増設できる装置の数は異なります。


！ 制限

- マニュアルで方法を記載していない装置の増設・交換は行わないでください。故障の原因となります。
- 本機のマザーボードに搭載されているシリアル ATA コネクタは 4 つです。このため、シリアル ATA 仕様の HDD/ 光ディスクドライブは、合わせて 4 台までの接続となります。



●5.25 型ドライブベイ

5.25 型装置（光ディスクドライブなど）を 2 台装着できます。

 p.66 「5.25 型ドライブの装着」


●3.5 型ドライブベイ

3.5 型の装置（HDD など）を 3 台装着できます。

 p.70 「3.5 型ドライブの装着」

●メモリスロット


メモリーを 2 枚装着できます。

 **別冊** 「ユーザーズマニュアル」- 「メモリーの装着」

●拡張スロット

次の拡張ボードを装着できます。

- PCI Express x16 ボード 1 枚
- PCI ボード 3 枚

 p.57 「拡張ボードの装着」

作業時の注意

内部装置の取り付け・取り外しをする場合は、必ず次の点を確認してから作業を始めてください。



- 内部装置の取り付け・取り外しをするときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。
- マニュアルで指示されている以外の分解や改造はしないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



- 装置の取り付け・取り外しは、本機の内部が高温になっているときには行わないでください。火傷の危険があります。作業は電源を切って10分以上待ち、内部が十分冷めてから行ってください。
- 不安定な場所（ぐらついた机の上や傾いた所など）で、作業をしないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがをする危険があります。



- 本機から周辺機器を必ず取り外してください。
- 取り付けを行う際は、取り付ける装置のマニュアルを必ず参照してください。
- 本機内部のケースや基板には突起があります。作業の際には、けがをしないよう注意してください。
- 作業を行う前に金属製のものに触れて静電気を逃がしてください。装置や本機に静電気が流れると、基板上の部品が破損するおそれがあります。
- 本機内部にネジや金属などの異物を落とさないでください。
- 拡張ボードを持つときは、端子部や素子に触れないでください。破損や接触不良による誤動作の原因になります。
- 装置は落とさないように注意してください。強い衝撃が、破損の原因になります。
- 拡張ボードの着脱は、頻繁に行わないでください。必要以上に着脱を繰り返すと、端子部などに負担がかかり、故障の原因になります。

装置装着時の準備作業

装置の装着を行う場合は次の準備作業が必要です。各装置の装着手順に従って、必要に応じて作業を行ってください。



作業するときは、コンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火傷の原因となります。

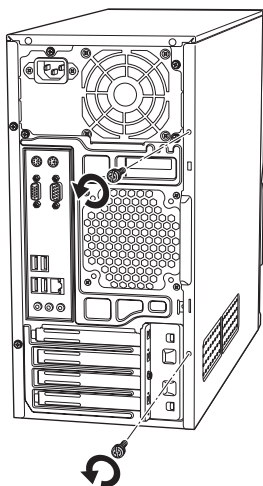
本体カバーの取り外し・取り付け

本機の内部に装置を装着する場合は、本体カバーを外してください。

取り外し

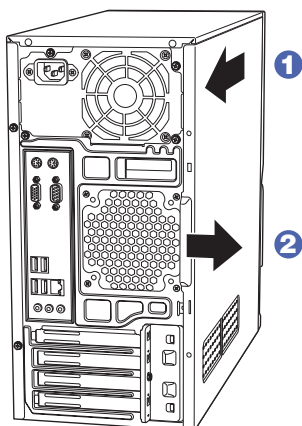
本体カバーの取り外し方法は次のとおりです。

- 1 本体背面右側のネジ（2本）を外します。



- 2 本体カバーを取り外します。

- 1 本体カバーを本体背面側にスライドさせます。
- 2 本体カバーを横へ外します。

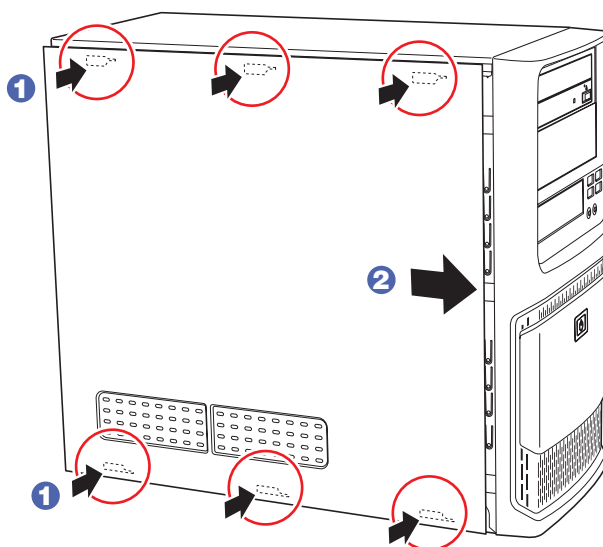


取り付け

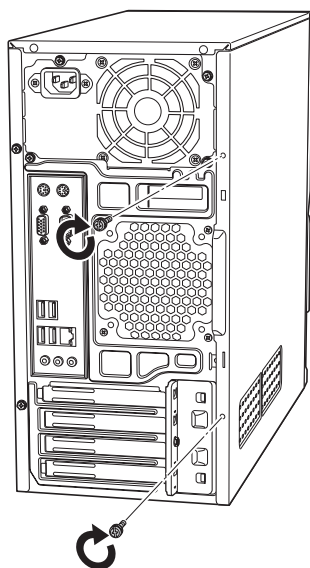
本体カバーの取り付け方法は次のとおりです。

1 本体カバーを取り付けます。

- 1 本体側面の穴（6 個）とカバーの突起（6 個）の位置を合わせて、本体カバーを横からはめ込みます。
- 2 本体カバーを本体前面側にスライドさせます。



2 ネジ（2 本）で本体カバーを固定します。



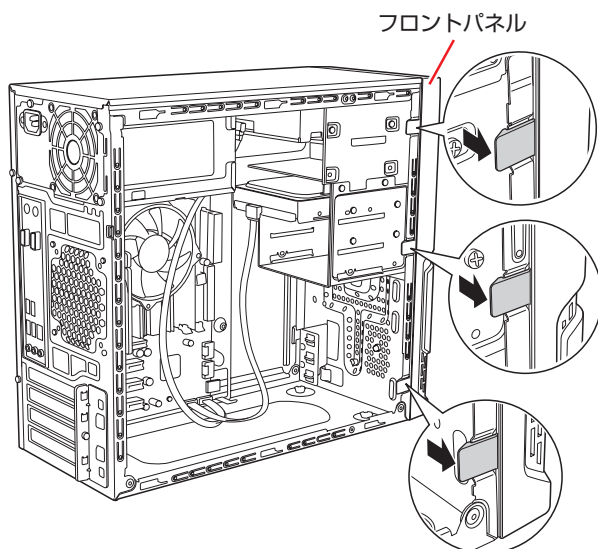
フロントパネルの取り外し・取り付け

本機の内部に装着する装置によっては、フロントパネルを取り外す必要があります。

取り外し

フロントパネルの取り外し方法は次のとおりです。

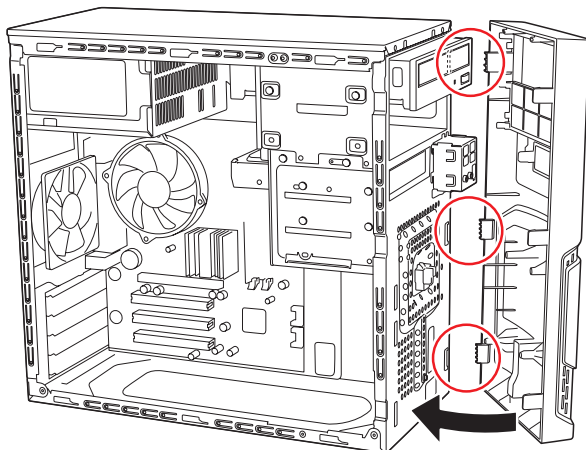
- 1** フック（3カ所）を外して、フロントパネルを取り外します。



取り付け

フロントパネルの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルのフック（3カ所）を本体前面右側の穴（3カ所）に差し込みます。
- 2** フロントパネルの左側を押し込みます。



5.25型フェイスプレートの取り外し・取り付け

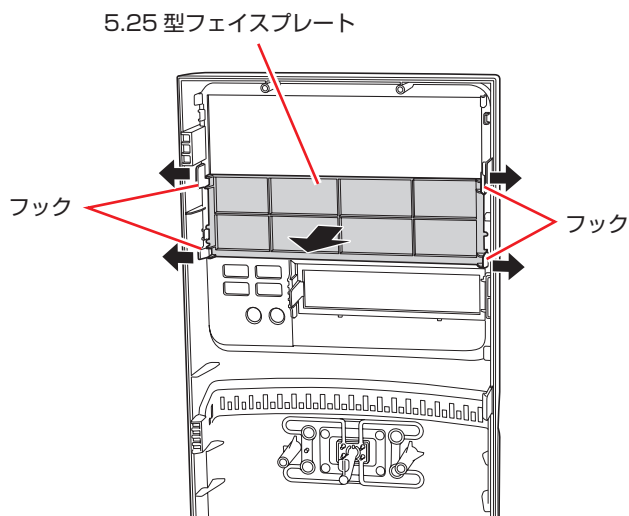
5.25型フェイスプレートは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

取り外し

5.25型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネル側のフック（4カ所）を外側に向かって押し、フェイスプレートを取り外します。

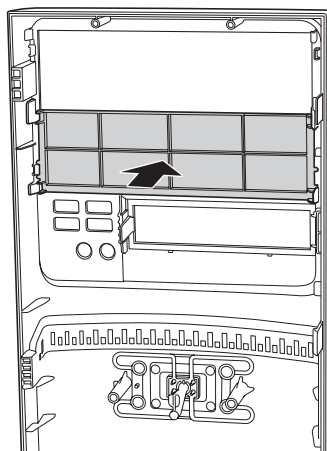
外したフェイスプレートは大切に保管してください。



取り付け

5.25型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フロントパネルにフェイスプレートを押し込み、フックで固定します。



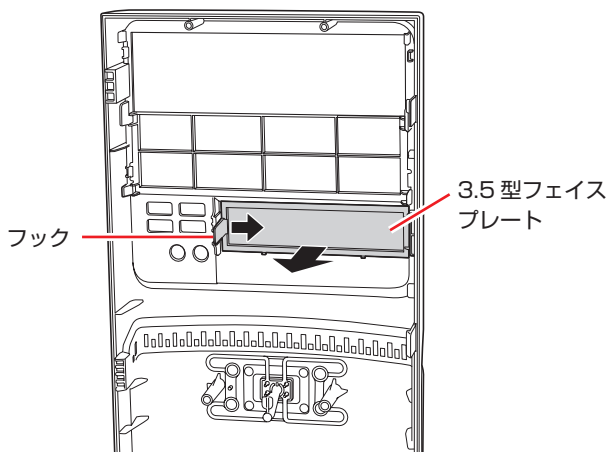
3.5型フェイスプレートの取り外し・取り付け

3.5型フェイスプレートは、次の手順で取り外し・取り付けを行います。

取り外し

3.5型フェイスプレートの取り外し方法は次のとおりです。

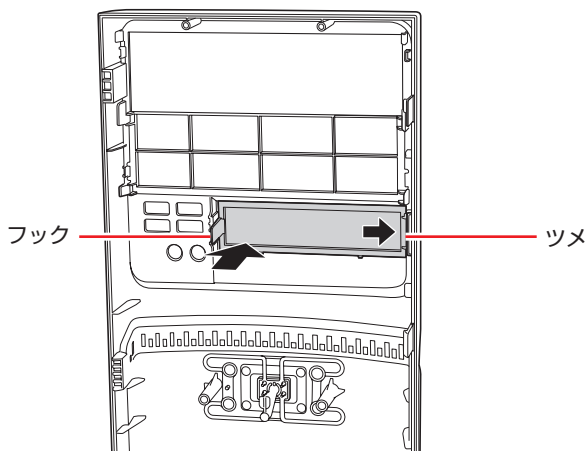
- 1** フックを内側に押し、フェイスプレートを外します。
外したフェイスプレートは大切に保管してください。



取り付け

3.5型フェイスプレートの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** フェイスプレートのツメをフロントパネル側に差し込んでから、フック側を押し込みます。

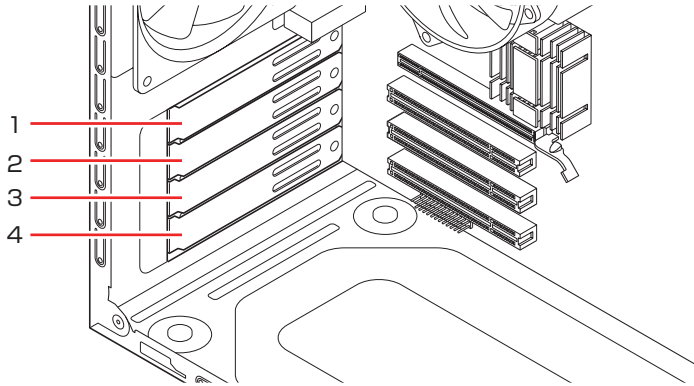


拡張ボードの装着

拡張スロットの仕様と、拡張ボードの取り付け・取り外し方法について説明します。

拡張スロットの仕様

本機には拡張スロットが4つあります。各スロットの仕様は次のとおりです。




スロット番号	コネクタ仕様	装着可能な拡張ボードサイズ
1	PCI Express x16	ボード長 198mm まで
2	PCI 2.2	ボード長 312mm (フルサイズ) まで
3		
4		

拡張ボードの取り付け・取り外し




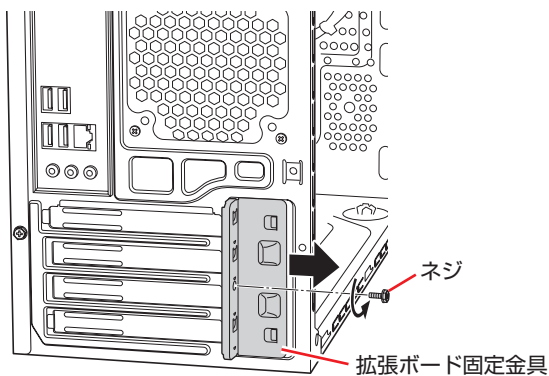
拡張スロットには機器の性能を維持するため鋭いエッジがあります。手を傷つけないように作業してください。

作業を始める前に  p.51 「作業時の注意」と拡張ボードのマニュアルを必ずお読みください。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。

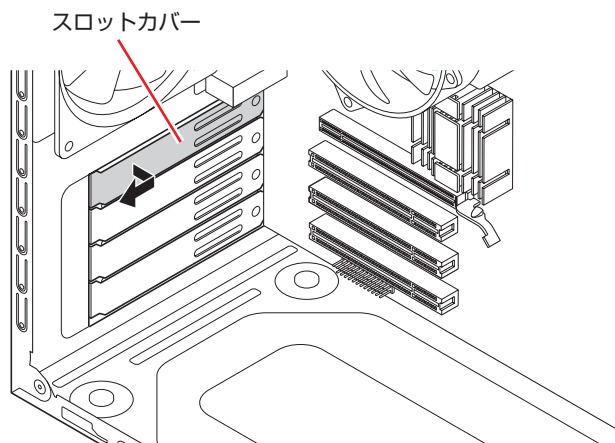
取り付け

拡張ボードの取り付け方法は次のとおりです。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.52 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** 拡張ボードを装着するスロットのスロットカバーを外します。
 - 1** ネジを外して、拡張ボード固定金具を取り外します。



- ② スロットカバーを手前に引き抜きます。



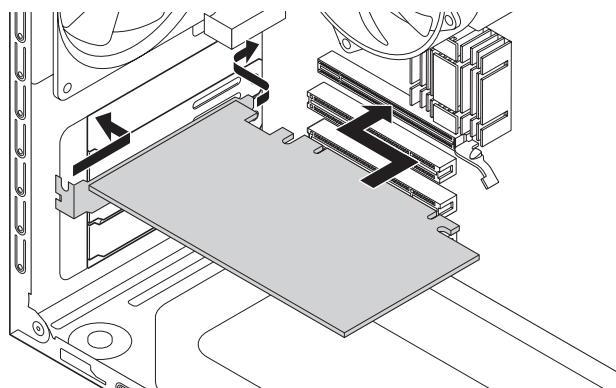
外したスロットカバーは、大切に保管してください。別の拡張ボードを装着しない場合は、本体内部にホコリなどが入らないように、再びスロットカバーを装着します。

- ⑤ 拡張ボードを取り付けます。

通常のボードの場合

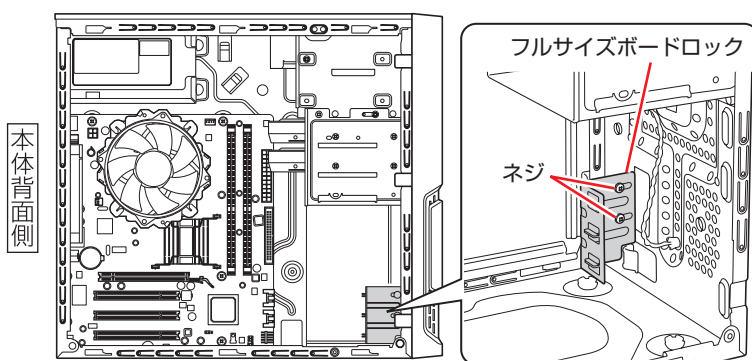
拡張ボードを差し込みます。

拡張ボードの端子部を、コネクタに軽く触れる程度に差し込みます。コネクタに無理な力がかかっていないことを確認して、ゆっくり押し込みます。

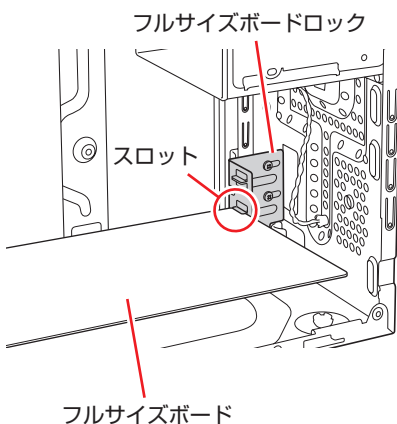


フルサイズ (312mm) のボードの場合

- 1 フルサイズボードロックのネジ (2本) をゆるめます。



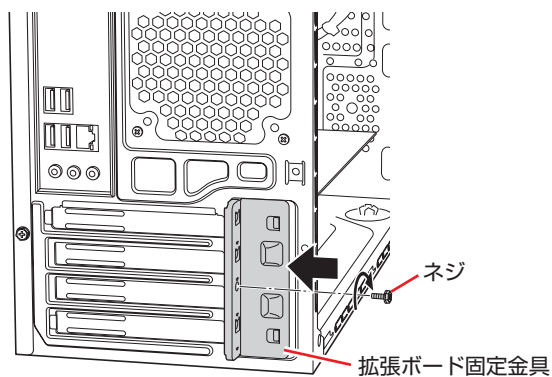
- 2 フルサイズボードロックのスロットにボードを差し込み、＜通常のボードの場合＞と同様に、端子部をコネクタに差し込みます。



- 3 フルサイズボードロックのネジ (2本) を締めて固定します。

6 拡張ボード固定金具を取り付け、ネジで固定します。

拡張ボードによっては、コンピューター内部のコネクタとのケーブル接続が必要な場合があります。拡張ボードのマニュアルで確認してください。



7 本体カバーを取り付けます。
👉 p.52 「本体カバーの取り外し・取り付け」

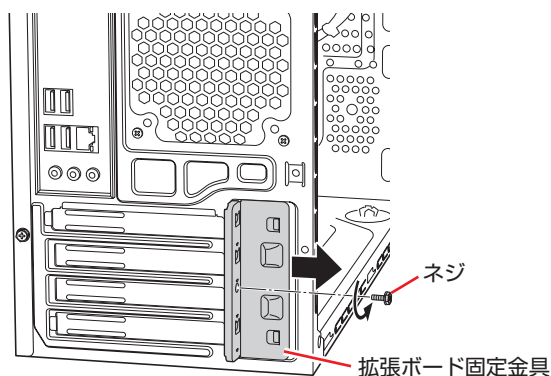
8 **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて、👉 p.62 「拡張ボード取り付け・取り外し後の作業」を行います。

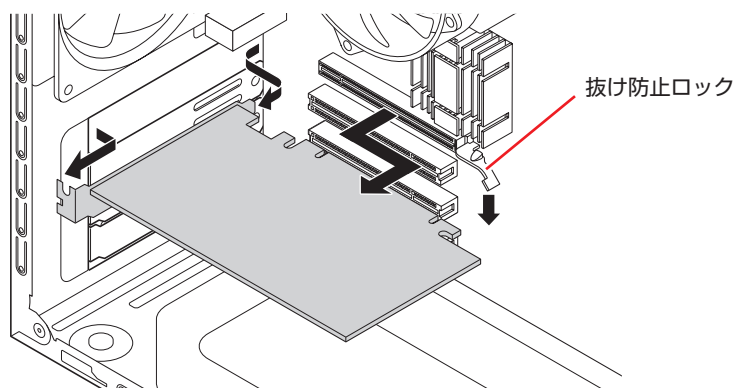
取り外し

拡張ボードの取り外しは、👉 p.58 「取り付け」の **4** ~ **6** を次の手順に読み替えて行ってください。

1 ネジを外して、拡張ボード固定金具を取り外します。
フルサイズのボードの場合は、フルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめます。



2 拡張ボードを引き抜きます。
PCI Express x16 の場合は、抜け防止ロックを下に押しながら、ボードを引き抜きます。



3 拡張ボードを取り外したスロットに別の拡張ボードを装着しないときは、スロットカバーを差し込み、拡張ボード固定金具を取り付けてネジで固定します。

1 でフルサイズボードロックのネジ（2本）をゆるめた場合は、ネジを締めておきます。

拡張ボード取り付け・取り外し後の作業

拡張ボードの取り付け・取り外しをしたら、次の作業を行ってください。

ビデオボードの場合

ビデオボードの取り付け・取り外しをした場合、BIOS などの設定は必要ありませんが、ボードによってはドライバーのインストール、アンインストールが必要です。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。

そのほかのボードの場合

拡張ボードによっては作業が必要な場合があります。詳しくはボードのマニュアルをご覧ください。

ドライブ装置とコネクタの接続

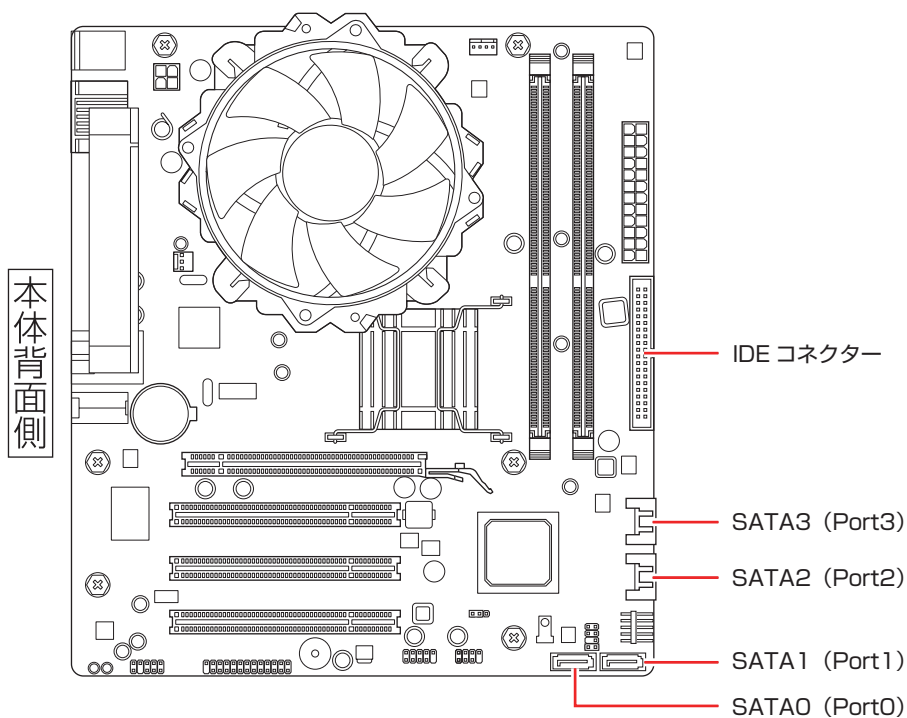
ここでは、マザーボード上のコネクタとドライブ装置の接続について説明します。

マザーボード上のコネクタと接続できるドライブ装置

マザーボード上の次のコネクタには、それぞれの規格に対応したドライブ装置を接続することができます。

コネクタ	数量	接続する装置
シリアル ATA コネクタ	4 個	シリアル ATA 仕様の HDD または光ディスクドライブ
IDE コネクタ	1 個	IDE 仕様の HDD または光ディスクドライブ

各コネクタの位置は次のとおりです。



シリアル ATA コネクタ

シリアル ATA コネクタには、シリアル ATA 仕様の HDD や光ディスクドライブを 4 台接続できます。

接続は次のように行ってください。

コネクタ	接続する装置
SATA0 (Port0)	HDD
SATA1 (Port1)	HDD または光ディスクドライブ
SATA2 (Port2)	
SATA3 (Port3)	



Windows は、SATA0 (Port0) に接続された HDD にインストールしてください。

IDE コネクタ

IDE コネクタには、IDE 仕様の HDD や光ディスクドライブを 1 台または 2 台(ケーブルによる)接続できます。

※ 本機に IDE ケーブルは添付されていません。

ドライブ装置に接続するケーブル類

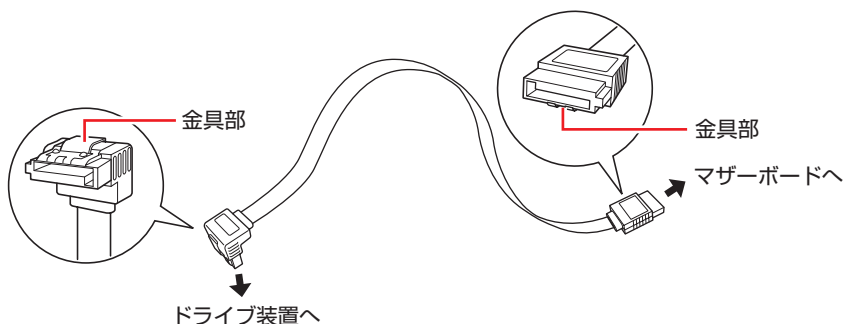
ドライブ装置は、次のケーブルを使って接続します。

シリアル ATA ケーブル

シリアル ATA 仕様の HDD や光ディスクドライブは、「シリアル ATA ケーブル」を使って、マザーボードのシリアル ATA コネクタに接続します。シリアル ATA ケーブルは、ケーブル両端の形状とコネクタの向きを確認して接続してください。

シリアル ATA ケーブルをコネクタから抜く際は、金具部を押しながら引き抜きます。

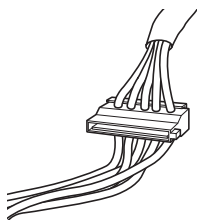
※ 本機に増設用のシリアル ATA ケーブルは添付されていません。



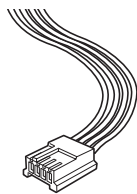
周辺機器用電源ケーブル

本機の電源ユニットには、ドライブ装置に電源を供給するための「周辺機器用電源ケーブル」が付いています。

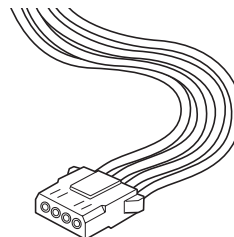
周辺機器用電源ケーブルの各コネクタの形状と、接続するドライブ装置は次のとおりです。



シリアル ATA 仕様の HDD や
光ディスクドライブなど





3.5 型ドライブなど




IDE 仕様の HDD や
光ディスクドライブなど

5.25 型ドライブの装着

5.25 型ドライブの取り付け・取り外し方法について説明します。

- 光ディスクドライブの場合  p.66
- そのほかの 5.25 型ドライブの場合  p.69


光ディスクドライブの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.51 「作業時の注意」と、「機器のマニュアル」を必ずお読みください。作業を行う場合は、必要に応じて本機を横置きにしてもかまいません。






制限

本機のマザーボードに搭載されているシリアル ATA コネクタは 4 つです。このため、HDD が 3 台装着されている場合、装着できる光ディスクドライブは 1 台のみとなります。

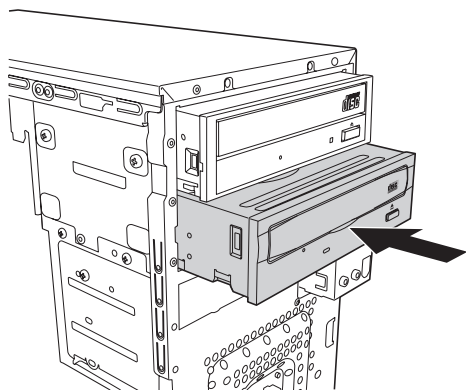
本機には光ディスクドライブ増設用のネジとケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 **別冊** 『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。「カスタマーサービスセンター」までご連絡ください。

取り付け

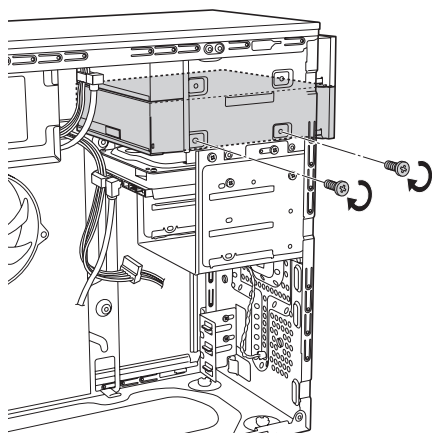
光ディスクドライブの取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2 台目の光ディスクドライブを取り付ける方法を説明します。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.52 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 4** フロントパネルを取り外します。
 p.54 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 5** フロントパネルから 5.25 型フェイスプレートを取り外します。
 p.55 「5.25 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

6 装置を 5.25 型ドライブベイに押し込みます。




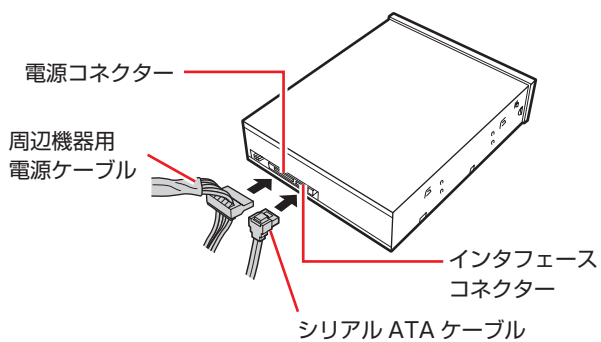
7 装置のネジ穴をドライブキャリアのネジ穴に合わせて、ネジ（2本）で固定します。



8 ケーブル類を接続します。

- 1 周辺機器用電源ケーブルを電源コネクタに接続します。
- 2 シリアル ATA ケーブルをドライブ装置のインタフェースコネクタとマザーボード上のシリアル ATA コネクタに接続します。

マザーボード上のコネクタ位置は  p.63 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。

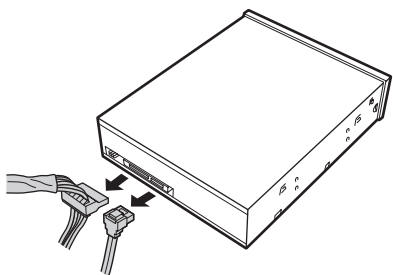


- 9** フロントパネルを取り付けます。
👉 p.54 「フロントパネルの取り外し・取り付け」
- 10** 本体カバーを取り付けます。
👉 p.52 「本体カバーの取り外し・取り付け」
- 11** **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。
続いて 👉 p.69 「光ディスクドライブ取り付け・取り外し後の作業」を行います。

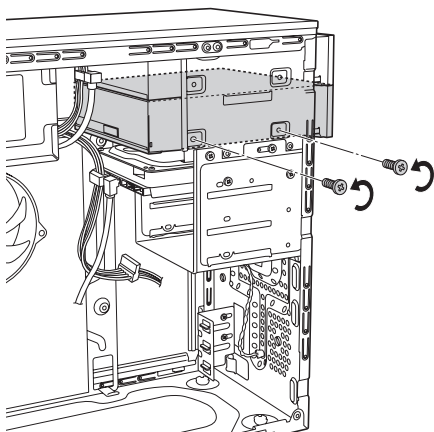
取り外し

光ディスクドライブの取り外しは、👉 p.66 「取り付け」の **5** ~ **8** を、次の手順に読み替えて行ってください。

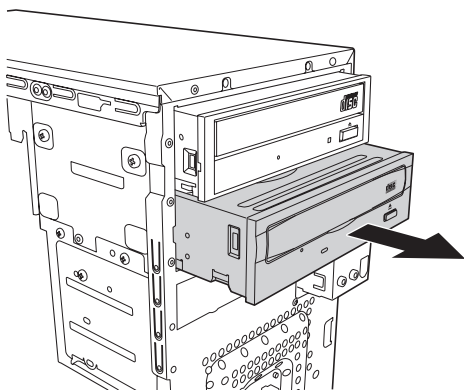
- 1** 装置に接続されているケーブル類とマザーボードに接続されているシリアル ATA ケーブルを取り外します。



- 2** 装置を固定しているネジ（2本）を外します。



3 装置を引き抜きます。



4 必要に応じて、フロントパネルに 5.25 型フェイスプレートを取り付けます。

 p.55 「5.25 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

光ディスクドライブ取り付け・取り外し後の作業

5.25 型ドライブの取り付け・取り外しをした場合、光ディスクドライブによっては、ライティングソフトなどのインストール・アンインストールが必要な場合があります。詳しくは、光ディスクドライブのマニュアルをご覧ください。

そのほかの5.25型ドライブを装着する



光ディスクドライブ以外の 5.25 型ドライブの場合も、光ディスクドライブと同様の手順で装着してください。

 p.66 「光ディスクドライブの取り付け・取り外し」

ケーブルの接続方法は、ドライブにより異なります。また、ドライブ装着後に、作業が必要な場合があります。詳しくは、装着するドライブのマニュアルをご覧ください。

3.5 型ドライブの装着


3.5 型ドライブの取り付け・取り外し方法について説明します。


- HDD の場合  p.70
- そのほかの 3.5 型ドライブの場合  p.74

HDDの取り付け・取り外し

作業を始める前に  p.51「作業時の注意」と、「機器のマニュアル」を必ずお読みください。


！ 制限

- 本機のマザーボードに搭載されているシリアル ATA コネクタは 4 つです。このため、光ディスクドライブが 2 台装着されている場合、装着できる HDD は 2 台までとなります。
- HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD の増設を行ってください。
 p.88「解除方法」

本機には HDD 増設用のネジとケーブルは添付されていません。ネジ、ケーブルは当社から購入することができます。 **別冊**『サポート・サービスのご案内』をご覧ください。カスタマーサービスセンターまでご連絡ください。

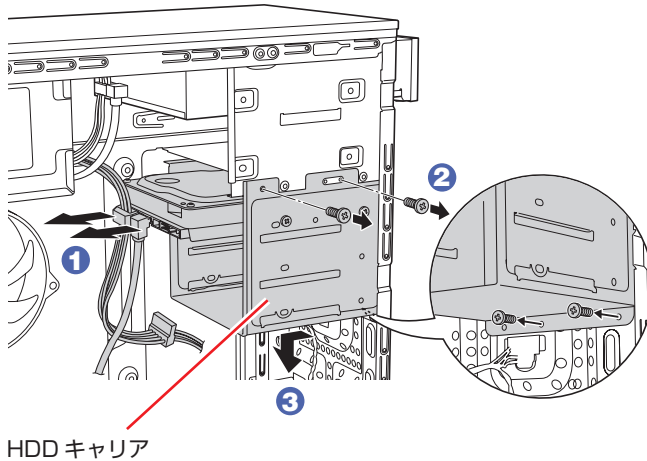
取り付け

HDD の取り付け方法は次のとおりです。ここでは、2 台目の HDD を取り付ける方法を説明します。

- 1** 本機および接続されている周辺機器の電源を切ります。
作業直前まで本機が動作していた場合は、本機内部が冷えるまで 10 分以上放置してください。
- 2** 本機に接続されているケーブル類（電源コードなど）をすべて外します。
- 3** 本体カバーを取り外します。
 p.52「本体カバーの取り外し・取り付け」

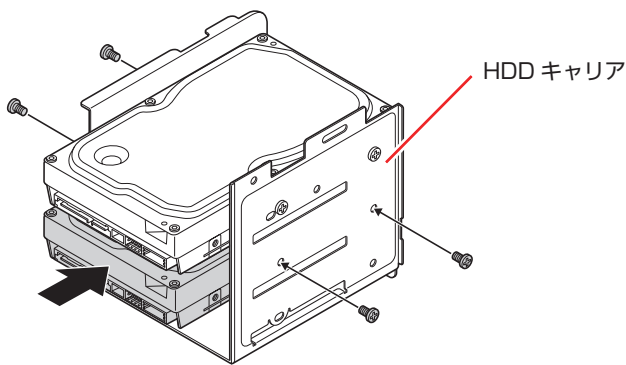
4 HDD キャリアを本体から取り外します。

- 1 装着されている 1 台目の HDD に接続されているケーブル類を外します。
- 2 本体ケースと HDD キャリアを固定しているネジ (4 本) を外します。
- 3 HDD キャリアを矢印のとおりにずらして取り外します。



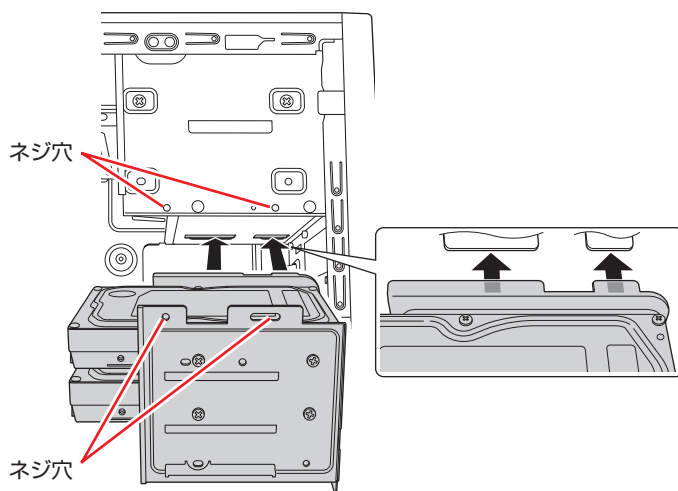
5 HDD キャリアに HDD を取り付けます。

- 1 取り付ける HDD を装着されている 1 台目の HDD と同じ向きにし、HDD キャリアに差し込みます。
- 2 HDD のネジ穴を HDD キャリアのネジ穴に合わせて、ネジ (4 本) で固定します。



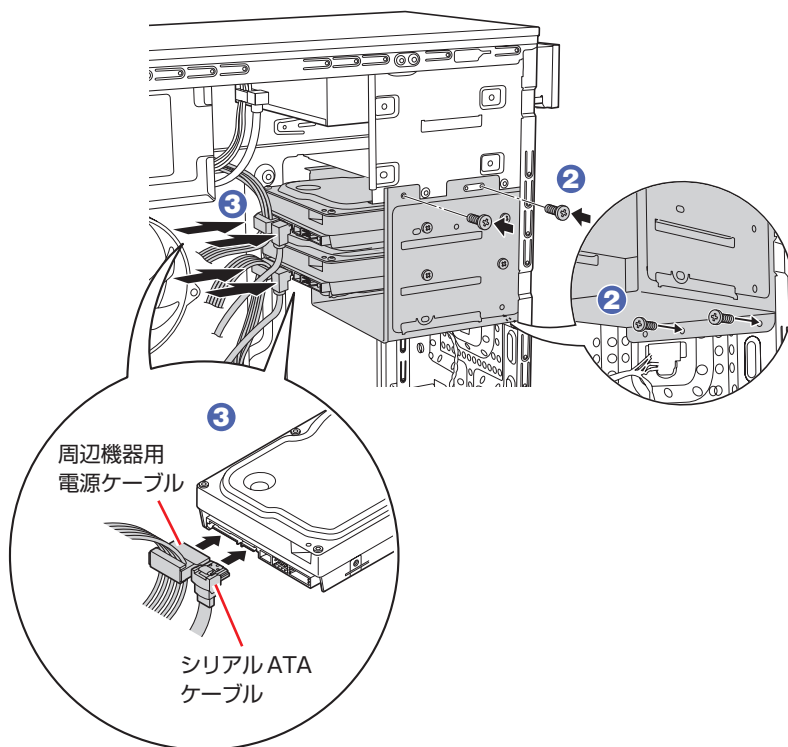
6 HDD キャリアを本体に取り付けます。

- 1 奥は HDD キャリア側のツメを本体側の切込みに差し込み、手前は HDD キャリアのネジ穴部分を本体のネジ穴部分にかぶせます。



- 2 HDD キャリアのネジ穴に本体のネジ穴を合わせて、ネジ（4本）で固定します。
- 3 シリアル ATA ケーブルを、HDD のコネクタとマザーボード上のシリアル ATA コネクタに接続し、周辺機器用電源ケーブルを、HDD の電源コネクタに接続します。

マザーボード上のコネクタ位置は、 p.63 「ドライブ装置とコネクタの接続」で確認してください。



7 本体カバーを取り付けます。
👉 p.52 「本体カバーの取り外し・取り付け」

8 **2** で取り外したケーブル類（電源コードなど）を接続します。

続いて👉 p.73 「HDD 取り付け後の作業」を行います。

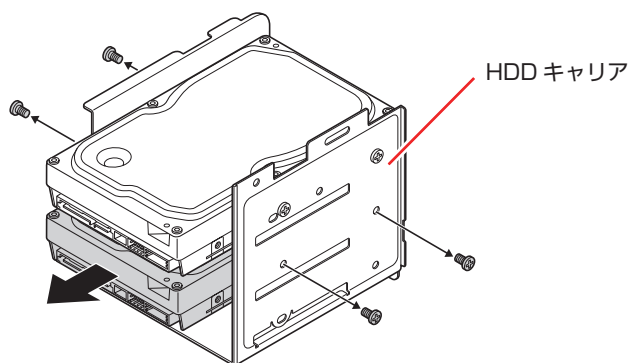
取り外し

HDD の取り外しは、👉 p.71 「取り付け」の **5** を次の手順に読み替えて行ってください。

！制限 HDD へのアクセス制限を設定している場合は、解除してから HDD を取り外してください。
👉 p.88 「解除方法」

1 HDD キャリアから HDD を取り外します。

HDD キャリアと HDD を固定しているネジ（4 本）を外し、HDD キャリアから HDD を外します。



ほかの HDD を取り付けない場合は、シリアル ATA ケーブルをマザーボードから取り外し、大切に保管して下さい。

HDD取り付け後の作業

HDD を取り付けたら、次の作業を行ってください。

HDD を取り付けただけの場合は、👉 p.106 「HDD 領域の変更」をご覧ください。ドライブの作成を行ってください。

そのほかの3.5型ドライブを装着する

HDD 以外の 3.5 型ドライブは、一番上のベイに装着します。
一番上のベイに装着されている HDD は、別のベイへ移動してください。

 p.70 「HDD の取り付け・取り外し」

装着は、フロントパネルの 3.5 型フェイスプレートを取り外してから、光ディスクドライブの手順を参考にして行ってください。

 p.56 「3.5 型フェイスプレートの取り外し・取り付け」

 p.66 「光ディスクドライブの取り付け・取り外し」

ケーブルの接続方法は、ドライブにより異なります。また、ドライブ装着後に、BIOS の変更や、ドライバーのインストールなどが必要な場合があります。
詳しくは、装着するドライブのマニュアルをご覧ください。

※ 本機のマザーボード上に、FDD やマルチカードリーダー接続用のコネクタは用意されていません。

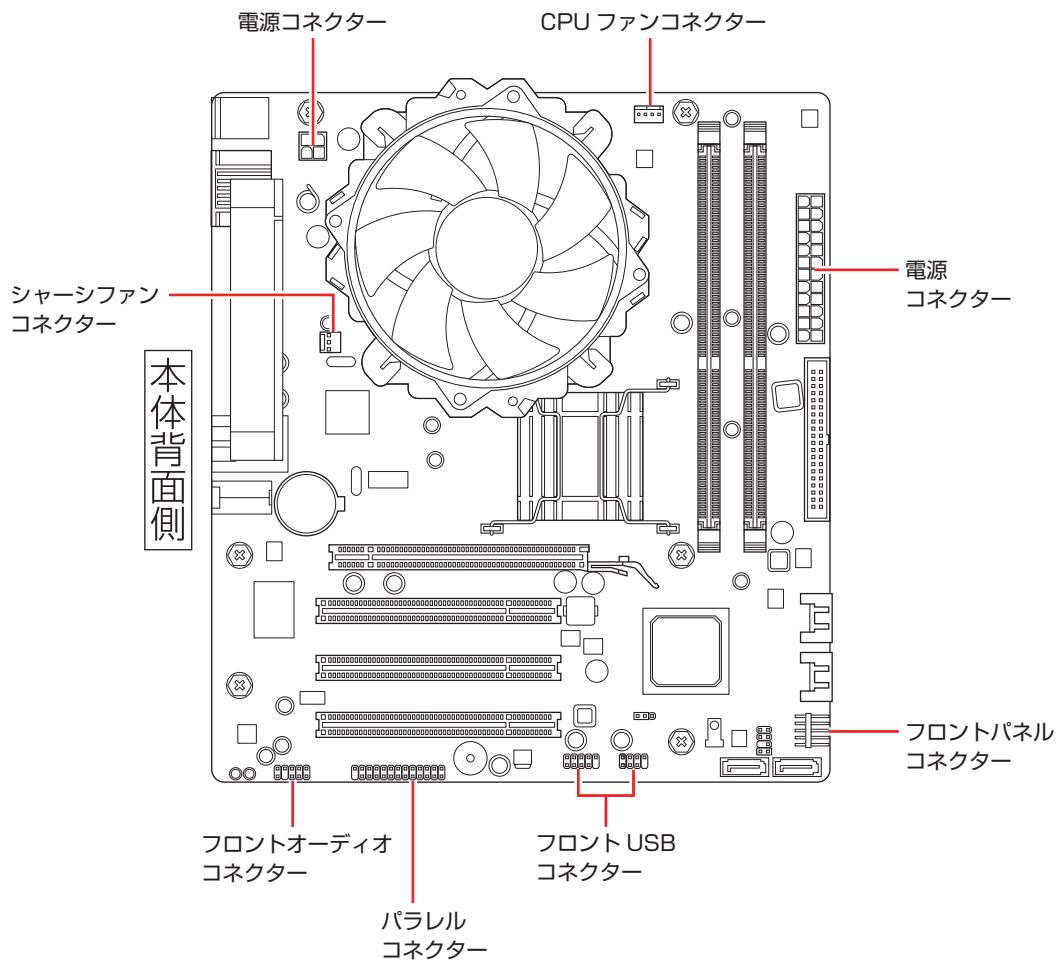
コンピューター内部のケーブル接続

本機の内部には何本かのケーブルがあり、マザーボードに接続されています。通常、これらのケーブルを外したり接続したりする必要はありません。誤って外してしまった場合には、次の図を参照して、正しく接続してください。



各種ケーブルは、本書で指示されている以外の配線をしないでください。配線を誤ると、ケーブルが焼損する場合があります。

コネクタ位置 (マザーボード上)





3

BIOS の設定

コンピュータの基本状態を管理しているプログラム「BIOS」の設定を変更する方法について記載しています。

BIOS の設定を始める前に.....	78
BIOS Setup ユーティリティーの操作.....	79
BIOS Setup ユーティリティーの設定項目	91

BIOS の設定を始める前に



制限

当社製以外の BIOS を使用すると、Windows が正常に動作しなくなる場合があります。当社製以外の BIOS へのアップデートは絶対に行わないでください。

BIOS は、コンピューターの基本状態を管理しているプログラムです。このプログラムは、マザーボード上に ROM として搭載されています。

BIOS の設定は「BIOS Setup ユーティリティ」で変更できますが、購入時のシステム構成に合わせて最適に設定されているため、通常は変更する必要はありません。BIOS の設定を変更するのは、次のような場合です。

- 本書やお使いの装置のマニュアルで指示があった場合
- パスワードを設定する場合
- マザーボード上の機能を有効 / 無効にする場合

BIOS の設定値を間違えると、システムが正常に動作しなくなる場合があります。設定値をよく確認してから変更を行ってください。

BIOS Setup ユーティリティで変更した内容は CMOS RAM と呼ばれる特別なメモリー領域に保存されます。このメモリーはリチウム電池によってバックアップされているため、本機の電源を切ったり、再起動しても消去されることはありません。



参考

リチウム電池の寿命

BIOS Setup ユーティリティの内容は、リチウム電池で保持しています。リチウム電池は消耗品です。本機の使用状況によって異なりますが、本機のリチウム電池の寿命は約3年です。日付や時間が異常になったり、設定した値が変わってしまうことが頻発するような場合には、リチウム電池の寿命が考えられます。リチウム電池を交換してください。


 **別冊** 「ユーザーズマニュアル」 - 「リチウム電池の脱着 (CMOS RAM の初期化)」

動作が不安定になったら

設定値を変更して本機の動作が不安定になった場合は、次の方法で設定値を戻すことができます。

- 購入時の設定と変更後の設定をあらかじめ記録しておき、手動で戻す。

万一に備え、設定値を記録しておくことをおすすめします。

 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」

- 初期値や、前回保存した設定値に戻す。

 p.84 「設定値を元に戻す」

BIOS Setup ユーティリティの操作

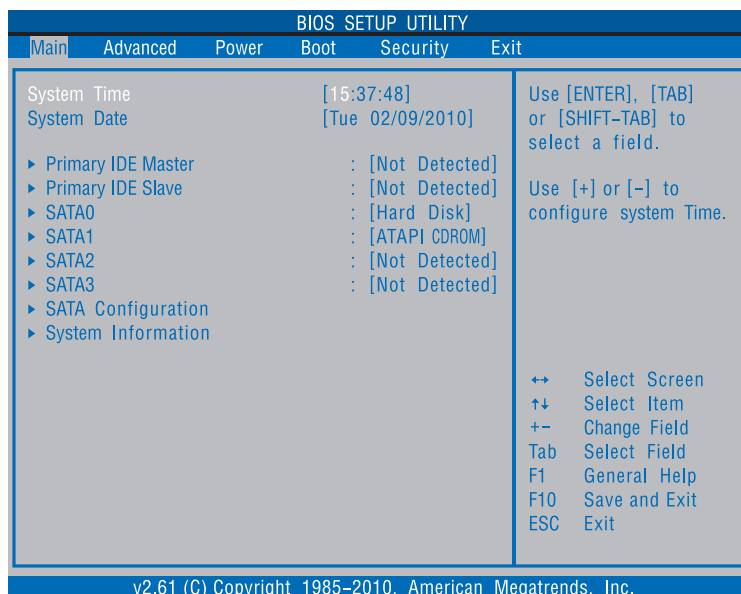
ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」の次の操作方法について説明します。

- 基本操作（起動、操作、終了）
- 設定値を元に戻す
- ユーザー設定値を保存する
- パスワードを設定する
- HDD アクセス制限
- 起動（Boot）デバイスの順番を変更する

BIOS Setupユーティリティの起動

本機の電源を入れる前に、キーボードの **[Delete]** の位置を確認してください。**2** では、すばやく **[Delete]** を押す必要があります。

- 1** 本機の電源を入れます。
すでに Windows が起動している場合は、再起動します。
- 2** 本機の起動直後、黒い画面の中央に「EPSON」と表示されたら、すぐに **[Delete]** を「トン、トン、トン・・・」と連続的に押します。
Windows が起動してしまった場合は、再起動して **2** をもう一度実行してください。
- 3** 「BIOS Setup ユーティリティ」が起動して「Main」メニュー画面が表示されます。



v2.61 (C) Copyright 1985-2010, American Megatrends, Inc.

< BIOS Setup ユーティリティ画面 (イメージ) >

仕様が前回と異なるとき

本機の状態が、前回使用していたときと異なる場合は、本機の電源を入れたときに、次のメッセージが表示されることがあります。


CMOS Checksum Bad
Press F1 to Run SETUP

このメッセージが表示されたら **[F1]** を押して BIOS Setup ユーティリティを起動します。通常は、そのまま「Exit & Save Changes」を実行して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.83 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

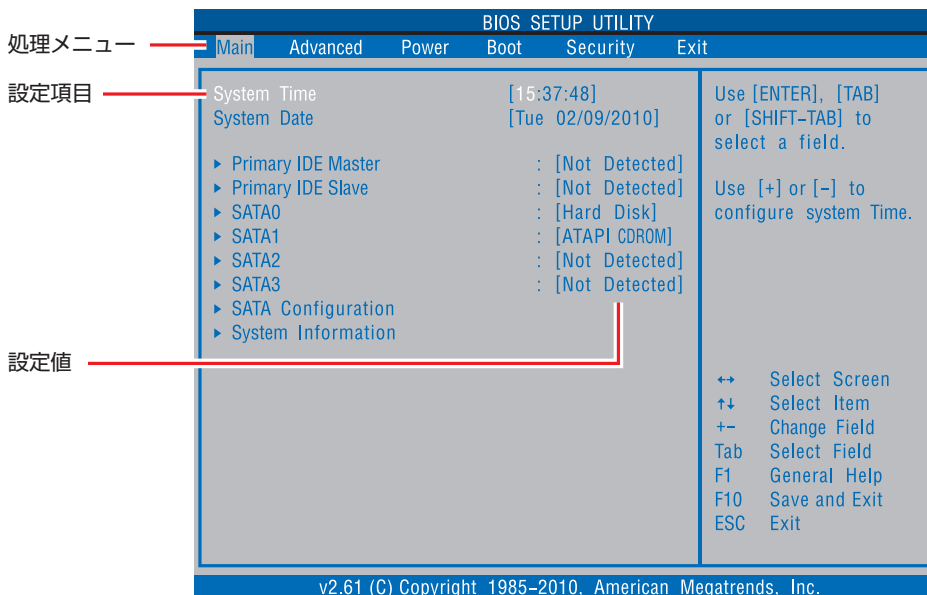
BIOS Setupユーティリティの操作

「BIOS Setup ユーティリティ」の操作は、キーボードで行います。

ここで説明している画面は、イメージです。実際の設定項目とは異なります。各メニュー画面と設定項目の説明は、 p.91 「BIOS Setup ユーティリティの設定項目」をご覧ください。

画面の構成

BIOS Setup ユーティリティを起動すると次の画面が表示されます。この画面で設定値を変更することができます。



<メニュー画面>

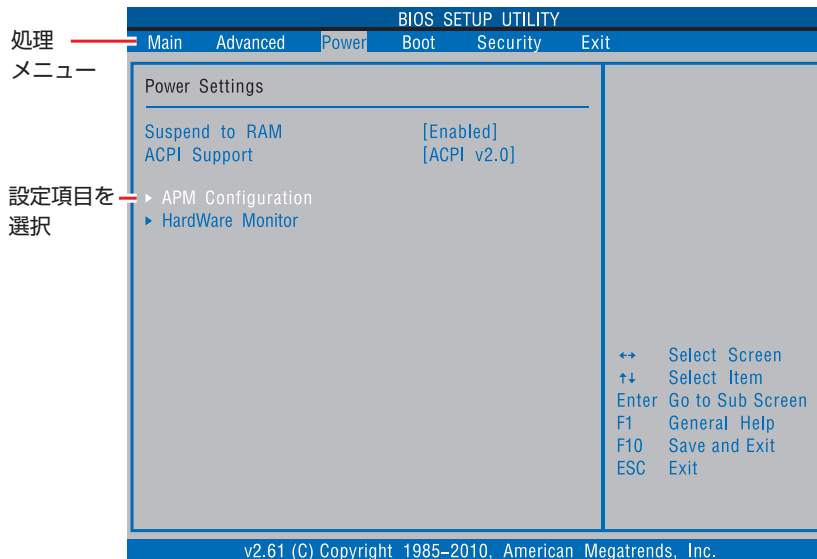
操作方法

BIOS Setup ユーティリティの操作方法は次のとおりです。

- 1 変更したい設定項目のあるメニューを、処理メニューから選択し、設定項目を選択します。

→ ← でメニュー間を移動します。

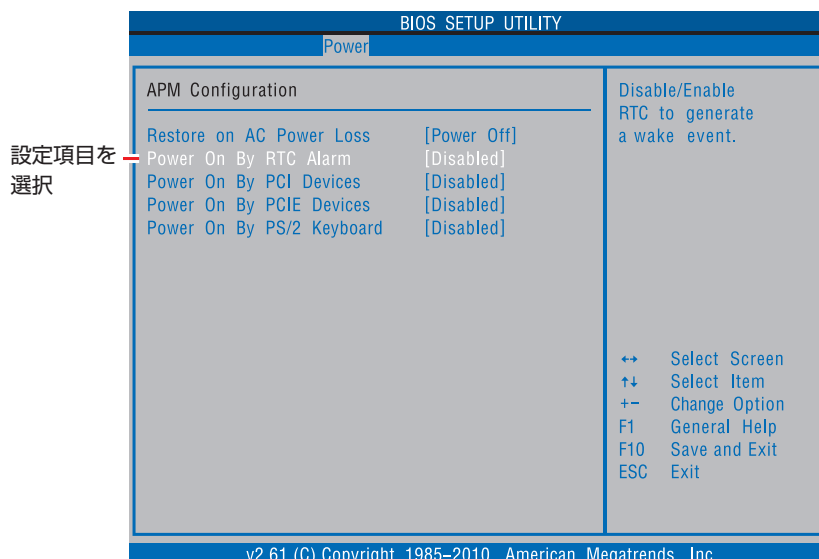
↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



<メニュー画面>

▶ のある項目の場合

▶ のある項目の場合、← を押すとサブメニュー画面が表示されます。↑ ↓ で設定値を変更したい項目まで移動します。



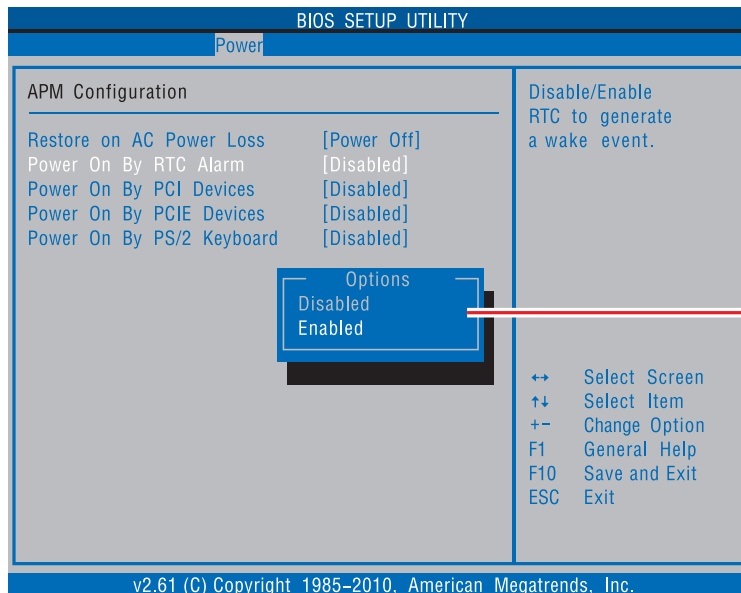
<サブメニュー画面>

サブメニュー画面から戻るには Esc を押します。



2 設定値を変更します。

← を押して選択ウィンドウを表示し、↑ ↓ で値を選択し ↵ で決定します。



選択ウィンドウ

キー操作

BIOS の画面を操作するときは、次のキーを使用します。

キー	操作できる内容
Esc	<ul style="list-style-type: none">変更した内容を破棄し、終了します。サブメニュー画面からメニュー画面に戻ります。
↑, ↓	設定を変更する項目を選択します。
←, →	処理メニューを選択します。
-, +	項目の値を変更します。
↵	<ul style="list-style-type: none">メニュー画面中の ▶ のある項目で押すとサブメニュー画面を表示します。選択項目の選択ウィンドウを表示します。設定値を選択します。
F1	ヘルプを表示します。
F5	全設定項目の値を、BIOS の初期値に戻します。
F7	変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
F10	変更した設定値を保存して終了します。

BIOS Setupユーティリティの終了

「BIOS Setup ユーティリティ」を終了するには、次の2つの方法があります。

Exit & Save Changes (変更した内容を保存し終了する)

変更した設定値を保存して、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **F10** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Save Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save configuration changes and exit setup? [OK] [Cancel]

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
「BIOS Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

Exit & Discard Changes (変更した内容を破棄し終了する)

変更した設定値を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。

- 1 **Esc** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Exit & Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Discard changes and exit setup? [OK] [Cancel]
--

- 2 **OK** を選択し、**Enter** を押します。
「BIOS Setup ユーティリティ」が終了し、Windows が起動します。

設定値を元に戻す

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定を間違えてしまい、万一、本機の動作が不安定になってしまった場合などには、設定値を BIOS の初期値や前回保存した値に戻すことができます。

Load Setup Defaults (BIOS の初期値に戻す)

設定値を BIOS の初期値に戻す方法は、次のとおりです。

※「Security」メニュー画面の項目を BIOS の初期値に戻すことはできません。

- 1 **F5** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Load Setup Defaults」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **Ok** を選択し、**Enter** を押します。
これで設定値が「BIOS の初期値」に戻ります。

Discard Changes (前回保存した設定値に戻す)

設定値を前回保存した値に戻す方法は、次のとおりです。

- 1 **F7** を押す、または「Exit」メニュー画面－「Discard Changes」を選択すると、次のメッセージが表示されます。



- 2 **Ok** を選択し、**Enter** を押します。
これで設定値が「前回保存した値」に戻ります。

ユーザー設定値を保存する

「BIOS Setup ユーティリティ」の設定値を変更した場合、その状態を「ユーザー設定値」として保存しておくことができます。ユーザー設定値を保存しておく、と、「Load Setup Defaults」やリチウム電池の脱着を行って、設定値が「BIOS の初期値」になってしまった場合などに、「ユーザー設定値」に戻すことができます。


Save User Define (ユーザー設定値を保存する)

設定値を「ユーザー設定値」として保存する方法は、次のとおりです。

- 1 BIOS Setup ユーティリティの設定値を変更します。

- 2** 「Exit」メニュー画面－「Save User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Save User Define?	
[OK]	[Cancel]


- 3** [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が保存されます。

Load Setup User Define (ユーザー設定値に戻す)

設定値を「ユーザー設定値」に戻す方法は、次のとおりです。
※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。

- 1** 「Exit」メニュー画面－「Load Setup User Define」を選択すると、次のメッセージが表示されます。

Load Setup User Define?	
[OK]	[Cancel]

- 2** [OK] を選択し、 を押します。
これで設定値が「ユーザー設定値」に戻ります。

パスワードを設定する


「Security」メニュー画面でパスワードを設定すると、BIOS や Windows の起動時にパスワードを要求されるようになります。
パスワードの設定は、次のような場合に行います。

- 本機を使用するユーザーを制限したいとき
- パスワードを設定しないと使用できない機能を使いたいとき
(HDD アクセス制限など)

パスワードの種類

パスワードには次の2種類があります。

- Supervisor Password (管理者パスワード)
コンピューターの管理者用のパスワードです。管理者パスワードで BIOS にログオンした場合は、すべての項目の閲覧と変更が可能です。
- User Password (ユーザーパスワード)
一般ユーザー用のパスワードです。ユーザーパスワードで BIOS にログオンした場合は、項目の閲覧や変更が制限されます (権限は、設定変更することができます)。

 p.87 「ユーザーパスワードの権限設定」

パスワードの設定方法

パスワードの設定方法を説明します。



設定したパスワードは、絶対に忘れないようにしてください。パスワードを忘れると、BIOS の設定変更や、設定によっては Windows の起動ができなくなります。

管理者パスワードの設定

管理者パスワードの設定方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを設定すると、ユーザーパスワードや HDD アクセス制限などが設定できるようになります。


- 1 「Security」メニュー画面－「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password:


- 2 パスワードを入力し、 を押します。


「*」が表示されない文字は、パスワードとして使用できません。パスワードとして使用できるのは英数字だけです。アルファベットの大文字と小文字は区別されません。パスワードは 8 文字まで入力可能です。

パスワード入力時は、キーボードの入力モードに注意してください。たとえば、数値キー入力モードでパスワードを設定し、起動時に数値キー入力モードではない状態でパスワードを入力するとエラーになります。

- 3 続いて次のメッセージが表示されます。確認のためにもう一度同じパスワードを入力し、 を押します。

Confirm New Password:


同じパスワードを入力しないと、「Passwords do not match !」というメッセージが表示されます。[Ok] が選択された状態で  を押すと、BIOS のメニュー画面に戻ります。この場合、**1** からやりなおしてください。

- 4 「Password installed.」というメッセージが表示されたら、[Ok] が選択された状態で  を押します。


パスワードの設定が完了すると、「Supervisor Password」項目の値が「Installed」に変わります。

パスワード入力タイミングの設定

BIOS Setup ユーティリティ起動時や、Windows 起動時など、どのタイミングでパスワードを要求するかを設定します。

 p.97 「Security メニュー画面」－「Password Check」

ユーザーパスワードの設定

ユーザーパスワードは、 p.86 「管理者パスワードの設定」 - **1** で「Change User Password」を選択し、管理者パスワードと同様の手順で設定します。

ユーザーパスワードの権限設定

ユーザーパスワードを設定した場合は、ユーザーパスワードで BIOS にログオンしたときの権限（項目の閲覧や変更に関する制限）を設定します。


 p.97 「Security メニュー画面」 - 「User Access Level」

パスワードの削除方法


パスワードの削除方法は、次のとおりです。

管理者パスワードを削除する場合は、管理者パスワードで BIOS にログオンしてください。

※ HDD アクセス制限やユーザーパスワードを設定している場合、管理者パスワードを削除すると、自動的に HDD アクセス制限やユーザーパスワードも削除（解除）されます。

- 1** 「Security」メニュー画面 - 「Change Supervisor Password」を選択して  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Enter New Password

- 2** 何も入力せずに  を押すと、次のメッセージが表示されます。

Password uninstalled.
[OK]

- 3** [OK] が選択された状態で  を押します。

「Supervisor Password」の表示が「Not Installed」に変わります。

これで管理者パスワードが削除されました。

ユーザーパスワードや HDD アクセス制限を設定している場合は、「User Password」項目の表示が「Not Installed」に、「Hard Disk Protection」項目の表示が「Disabled」に変わります。

HDDアクセス制限

HDD アクセス制限を設定すると、次の状態になります。

- BIOS や Windows 起動時、休止状態からの復帰時に管理者パスワードを要求される
- HDD をほかのコンピューターに接続した場合、認識されなくなる

HDD への無断アクセスや、万が一 HDD が盗難にあった場合の情報流出を防ぎたいときは、HDD アクセス制限を設定します。

HDD アクセス制限の設定 / 解除方法

HDD アクセス制限の設定 / 解除方法を説明します。

制限

- パスワードを忘れてしまうと、アクセス制限を設定した HDD は使用できなくなります。登録したパスワードは絶対に忘れないようにしてください。
- HDD を増設・交換する際は、HDD へのアクセス制限を解除した状態で行ってください。

設定方法

HDD アクセス制限の設定方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に設定できません。
必ずシャットダウンしてから設定を行ってください。
- 2** 「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
- 3** 管理者パスワードを設定します。
 p.86 「パスワードの設定方法」
- 4** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Enabled」に設定します。
 p.97 「Security メニュー画面」
- 5** BIOS Setup ユーティリティを終了します。
- 6** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

解除方法

HDD アクセス制限の解除方法は次のとおりです。

- 1** 本機の電源を切ります。
本機を一度シャットダウンしないと、HDD アクセス制限は正常に解除できません。
必ずシャットダウンしてから解除を行ってください。
- 2** 「BIOS Setup ユーティリティ」を起動します。
- 3** 「Security」メニュー画面－「Hard Disk Protection」を「Disabled」に設定します。
 p.97 「Security メニュー画面」
- 4** BIOS Setup ユーティリティを終了します。
- 5** Windows が起動したら、本機の電源を切ります。
最後に本機をシャットダウンしないと、設定が有効になりません。

起動(Boot)デバイスの順番を変更する

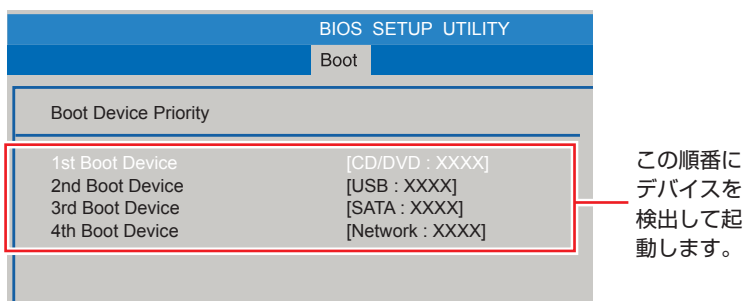
本機の電源を入れて起動しようとしたときに、USB 記憶装置 (USB フラッシュメモリーや USB HDD など) を接続していたり、USB FDD に FD がセットされていると、Windows が起動しないことがあります。

このような場合、「BIOS Setup ユーティリティー」で設定されている起動 (Boot) デバイスの順番を変更すると、起動したいデバイスからシステムを起動することができます。

起動 (Boot) デバイスの順番とは

電源を入れると、コンピューターは起動デバイスの順番に従ってデバイスを確認し、最初に見つけたシステム (OS) から起動します。

起動デバイスの順番の設定は、「Boot」メニュー画面ー「Boot Device Priority」で行います。



<イメージ>

「Boot Device Priority」には、接続 (設定) されているデバイスが表示されます。

- CD/DVD:XXXX (光ディスクドライブの型番)
- USB:XXXX (USB FDD や USB フラッシュメモリーなどの型番)
- SATA:XXXX (HDD の型番)
- Network:XXXX (ネットワーク)
- Disabled (検出するデバイスを割り当てないときに設定します)

起動 (Boot) デバイスの順番の変更方法




起動デバイスの順番の変更方法は、次のとおりです。ここでは USB 記憶装置を接続した状態で Windows を起動できるように、1 番目に起動するドライブを光ディスクドライブ、2 番目に起動するドライブを HDD に設定する方法を説明します。

1 「Boot」メニュー画面で「Boot Device Priority」を選択し、 を押します。

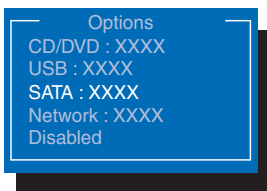
2 サブメニュー画面が表示されたら、現在の起動の順番を確認します。

3 HDD の順番を 2 番目に設定します。

1   で「2nd Boot Device」(2 番目) を選択し、 を押します。

2 選択ウィンドウが表示されたら、  で「SATA:XXXX」を選択し、 を押します。

HDD の順番が 2 番目になります。



<選択ウィンドウ>

4  を押して BIOS Setup ユーティリティを終了します。

 p.83 「BIOS Setup ユーティリティの終了」

これで、起動デバイスの変更は完了です。

BIOS Setup ユーティリティの設定項目

ここでは、「BIOS Setup ユーティリティ」で設定できる項目と、設定方法について説明します。
BIOS Setup ユーティリティには、次の6つのメニューがあります。

- Main メニュー画面
日付、時間、HDD などの設定を行います。
- Advanced メニュー画面
CPU に関する設定、I/O 関係の動作設定や PCI バス関係の設定などを行います。
- Power メニュー画面
省電力機能や起動に関する設定を行います。
- Boot メニュー画面
システムを起動するドライブの設定や本機の動作状態の設定などを行います。
- Security メニュー画面
パスワードやセキュリティに関する設定を行います。
- Exit メニュー画面
BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

Mainメニュー画面

「Main」メニュー画面では、日付、時間、HDD などの設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値
* は項目表示のみ

System Time	時刻を設定します。(時間：分：秒) の順で表示されます。
System Date	日付を設定します。(曜日 月 / 日 / 年) の順で表示されます。

Primary IDE Master Primary IDE Slave SATA 0 / SATA 1 / SATA 2 / SATA 3	各ドライブの仕様を設定します。 ※表示される詳細項目は、ドライブにより異なります。
* Device	ドライブの種類を表示します。
* Vender	ドライブの型番を表示します。
* F/W	ドライブのファームウェアのバージョンを表示します。
* Size	HDDの容量を表示します。
* LBA Mode	LBA (Logical Block Addressing) のサポート状態を表示します。
* PIO Mode	ドライブのPIO 転送モードを表示します。
* DMA Mode	HDDのDMA 転送モードを表示します。
* SMART Monitoring	S.M.A.R.T (Self Monitoring Analysis and Reporting Technology) の状態を表示します。
Type	ドライブの仕様を設定します。 Auto : BIOSが自動的にシリアルATA装置の仕様を設定します。 Not Installed : ドライブを使用しない場合に選択します。
LBA / Large LBA	LBA (Logical Block Addressing) を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Auto : 使用します。
Block Mode	一度に何セクター転送できるかを表示します。 Disabled : 使用しません。 Auto : BIOSが自動的に最適な速度を設定します。
PIO Mode	ドライブのPIO 転送モードを設定します。 初期値 [Auto] のままで使用します。
DMA Mode	ドライブのDMA 転送モードを設定します。 初期値 [Auto] のままで使用します。
SMART Monitoring	初期値 [Disabled] のままで使用します。
32Bit Data Transfer	32Bit データ転送を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
SATA Configuration	シリアルATA HDDの設定をします。
Configure SATA as	シリアルATA HDDの動作モードが表示されます。
Standard IDE Mode	Standard IDEのモードを設定します。 初期値 [Enhanced Mode] のままで使用します。
System Information	本機の仕様を表示します。
AMI BIOS	BIOSの情報を表示します。
* Version	BIOSのバージョンを表示します。
* Build Date	BIOSのバージョンの制定日を表示します。
System Memory	本機に搭載されているメモリー容量の情報を表示します。
* Installed Memory	本機に搭載されているメモリー容量を表示します。
* Usable Memory	本機で使用できるメモリー容量を表示します。 ※表示限界 : 3550MB

Advancedメニュー画面

「Advanced」メニュー画面では、CPUに関する設定、I/O関係の動作設定やPCIバス関係の設定などを行います。

設定項目は、次のとおりです。

■ は初期値

* は項目表示のみ

CPU Configuration	本機に搭載されているCPUに関する情報を表示します。
* Manufacturer	メーカーを表示します。
* Brand String	型番を表示します。
* Frequency	周波数を表示します。
* FSB speed	バス・スピードを表示します。
* Cache L1	CPUのL1 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L2	CPUのL2 キャッシュ容量を表示します。
* Cache L3	CPUのL3 キャッシュ容量を表示します。
* CPUID	CPU IDを表示します。
* Ratio Actual Value	ベースクロックに対する倍率を表示します。
Virtualization Technology	Intel Virtualization Technology 機能の有効 / 無効を設定します。 Virtualization Technology 機能を持つプロセッサ搭載時のみ表示されます。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。
Onboard Devices Configuration	マザーボード上のデバイスに関する設定を行います。
Onboard Audio	マザーボード上のサウンド機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN	マザーボード上のネットワーク機能を使用するかどうかを設定します。 Disabled : 使用しません。 Enabled : 使用します。
Onboard LAN Boot ROM	リモートブート機能の有効 / 無効を設定します。 Disabled : 無効にします。 Enabled : 有効にします。 [Enabled] に設定して再起動すると、「Boot」メニュー画面 - 「Boot Device Priority」に「4th Boot Device」として表示されます。
Serial Port 1 Address	シリアルポート 1 のアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled : シリアルポートを使用しません。 3F8/IRQ4, 2F8/IRQ3, 3E8/IRQ4, 2E8/IRQ3
Parallel Port Address	パラレルポートのアドレスと IRQ 信号を設定します。 Disabled : パラレルポートを使用しません。 378/IRQ7, 278/IRQ5, 3BC/IRQ7
Parallel Port Mode	パラレルポートの動作モードを設定します。接続する周辺装置で指示がある場合のみ変更します。 Normal : 標準の設定です。 Bi-Directional : EPP+ECP モードまたは双方向モードに設定します。 ECP : ECP モードに設定します。 EPP : EPP モードに設定します。

ECP Mode DMA Channel	「Parallel Port Mode」を [ECP] に設定すると表示されます。 初期値 [DMA3] のままで使用します。
EPP Version	「Parallel Port Mode」を [EPP] に設定すると表示されます。 初期値 [1.9] のままで使用します。
USB Configuration	USB コントローラーの設定をします。
USB Function	初期値 [Enabled] のままで使用します。
Legacy USB Support	初期値 [Enabled] のままで使用します。
USB2.0 Controller	USB の転送速度を設定します。 Disabled : USB 1.1 の転送速度で使用します。 Enabled : USB2.0 の転送速度で使用します。
USB2.0 Controller Mode	初期値 [HiSpeed] のままで使用します。

Powerメニュー画面


「Power」メニュー画面では、省電力機能や起動に関する設定を行います。
設定項目は、次のとおりです。


■ は初期値
* は項目表示のみ

ACPI Support	初期値 [ACPI v2.0] のままで使用します。
APM Configuration	起動する方法や条件を設定します。
Restore on AC Power Loss	電源スイッチを押さずに、電源供給時に起動するかどうかを設定します。 分電盤などによる複数のコンピューターの同時起動を行うと、コンピューターの動作に悪影響を及ぼす可能性がありますのでご注意ください。 Power Off : 電源が供給されても、電源スイッチを押さない限り起動しません。 Power On : 電源オフ時に、電源スイッチを押さなくても、電源が供給されるとコンピューターが起動します。 Last State : コンピューターの動作中に、雷などの影響で突然電源が切断されたあとに電源が再び供給されると、電源スイッチを押さなくてもコンピューターが起動します。コンピューターを正常終了させた状態では、電源が供給されてもコンピューターは起動しません。
Power On By RTC Alarm	コンピューターを指定した時間に起動させる設定をします。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
RTC Alarm Date Hour Minute Second	[Power On By RTC Alarm] を [Enabled] に設定すると表示されます。 起動する日時を設定します。
Power On By PCI Devices	電源切断時、PCI 接続のネットワークから起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Power On By PCIE Devices	電源切断時、マザーボード上のネットワーク (PCI Express 接続) から起動するかどうかを設定します。この機能は、Windows を正常に終了した状態でのみ使用可能です。 Disabled : 設定しません。 Enabled : 設定します。
Power On By PS/2 Keyboard	PS/2 キーボードを使用している場合に、起動 / 復帰をキーボードで行えるようにするかどうかを設定します。 Ctrl+ESC : <input type="button" value="Ctrl"/> + <input type="button" value="Esc"/> を使用します。 Disabled : 設定しません。
Fan Control	ファンの制御をします。
CPU Fan Control	CPU ファンを制御するかどうかを設定します。 初期値 [Enabled] のままで使用します。
CPU Fan Ratio	CPU ファンの回転率を設定します。初期値 [20%] のままで使用します。
Chassis Fan Control	シャーシファンを制御するかどうかを設定します。 初期値 [Enabled] のままで使用します。
Chassis Fan Ratio	シャーシファンの回転率を設定します。初期値 [60%] のままで使用します。

Bootメニュー画面

「Boot」メニュー画面では、システムの起動（Boot）に関する設定を行います。


Boot 順番の変更方法については、 p.89 「起動（Boot）デバイスの順番を変更する」をご覧ください。

 は初期値

*は項目表示のみ



Boot Device Priority	システムを起動するドライブの順番を設定します。
1st Boot Device	1 番目に起動するドライブを設定します。 初期値は搭載されている光ディスクドライブの型番が表示されます。
2nd Boot Device	2 番目に起動するドライブを設定します。 初期値は搭載されている HDD の型番が表示されます。 USB 機器を接続している場合は、USB 機器の型番が表示されます。
3rd Boot Device	3 番目に起動するドライブを設定します。 USB 機器を接続している場合は、搭載されている HDD の型番が表示されます。
4th Boot Device ※リモートブート機能を有効にすると表示されま す。	ネットワークから起動する場合に使用します。 リモートブート機能を有効にするには、「Advanced」メニュー画面－「Onboard Devices Configuration」の「Onboard LAN Boot ROM」を [Enabled] に 設定し、変更を保存して再起動します。
Hard Disk Drives	搭載されている HDD の順番を表示します。
1st Device	搭載されている HDD の型番が表示されます。
2nd Device	
3rd Device	
Removable Device	接続している記憶装置の順番を表示します。
1st Device	接続している記憶装置（USB フラッシュメモリーなど）の型番が表示されます。
2nd Device	
3rd Device	
4th Device	
Optical Disc Drive	搭載されている光ディスクドライブの順番を表示します。
1st Device	搭載されている光ディスクドライブの型番が表示されます。
2nd Device	
Boot Settings Configuration	コンピューター起動時の設定をします。
Full Screen Logo	コンピューター起動時にロゴを表示するかどうかを設定します。 Disabled：表示しません。 Enabled：表示します。
Bootup Num-Lock	DOS 起動時の NumLock の状態を設定します。 Off：NumLock が押されていない状態にします。 On：NumLock が押された状態にします。

Securityメニュー画面

「Security」メニュー画面では、パスワードやセキュリティーに関する設定を行います。
パスワードの設定方法は、 p.85 「パスワードを設定する」をご覧ください。
設定項目は、次のとおりです。

 は初期値

*は項目表示のみ

Security Settings	システム起動時や「BIOS Setup ユーティリティー」起動時などのパスワードを設定します。
Supervisor Password/ User Password	Supervisor Password (管理者パスワード) と User Password (ユーザーパスワード) が設定されているかどうかを表示します。 Installed : パスワードが設定されています。 Not Installed : パスワードが設定されていません。
Change Supervisor Password	管理者パスワードの設定や変更を行います。設定を行うと、「BIOS Setup ユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求されます。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
User Access Level ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	「User Password」(ユーザーパスワード) で「BIOS Setup ユーティリティー」にアクセスするときのアクセス制限レベルを 4 段階で設定します。 No Access : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティー」を起動することができません。 View Only : ユーザーパスワード使用者は「BIOS Setup ユーティリティー」を閲覧できますが、設定項目の変更はできません。 Limited : 「BIOS Setup ユーティリティー」を閲覧できるほかに、ユーザーパスワードなど一部の設定項目を変更できます。 Full Access : ユーザーパスワード使用者に管理者と同一の権利を許可します。「BIOS Setup ユーティリティー」のすべての項目を設定したり閲覧したりすることができます。ただし、管理者パスワードの変更はできません。
Change User Password ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	ユーザーパスワードの設定や変更を行います。「BIOS Setup ユーティリティー」起動時やシステム起動時にパスワード入力を要求します。  を押すとパスワード設定ウィンドウが表示されます。
Password Check ※管理者パスワードを設定 すると表示されます。	管理者パスワード、ユーザーパスワードを設定している場合に、パスワード入力を要求するタイミングを設定します。 Setup : 「BIOS Setup ユーティリティー」起動時にパスワード入力を要求します。 Always : 「BIOS Setup ユーティリティー」起動時、システム起動時、休止状態から復帰時にパスワード入力を要求します。
Hard Disk Security	HDD のセキュリティー機能の設定をします。
Hard Disk Protection ※管理者パスワードを設定 すると設定可能になりま す。	HDD へのアクセス制限の有効 / 無効を設定します。アクセス制限を有効に設定した HDD は、ほかのコンピューターに接続しても認識されなくなります。 有効に設定すると、BIOS、システムへのアクセスが制限され、BIOS 起動時とシステム起動時、休止状態からの復帰時にパスワード入力を要求します。 Disabled : HDD へのアクセスを制限しません。 Enabled : HDD へのアクセスを制限します。 ※ HDD アクセス制限を設定 / 解除する場合は、必ず本機を一度シャットダウンしてから行ってください。また、設定 / 解除後にも本機をシャットダウンしてください。

Exitメニュー画面

「Exit」メニュー画面では、BIOS Setup ユーティリティを終了したり、BIOS の設定値を初期値に戻したりします。

設定項目は、次のとおりです。

Exit & Save Changes	変更した内容（設定値）を保存してから、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Exit & Discard Changes	変更した内容（設定値）を保存せずに、BIOS Setup ユーティリティを終了します。
Discard Changes	BIOS Setup ユーティリティを終了させずに、変更した設定値を前回保存した設定値に戻します。
Load Setup Defaults	BIOS Setup ユーティリティの設定値を、BIOS の初期値に戻します。 ※「Security」メニュー画面の項目をBIOS の初期値に戻すことはできません。
Save User Define	BIOS の設定値をユーザー設定値として保存します。
Load Setup User Define	※「Save User Define」で設定値を保存後、実行可能になります。 設定値をユーザー設定値に戻します。

BIOSの設定値

BIOS Setup ユーティリティで設定を変更した場合は、変更内容を下表に記録しておくとも便利です。ユーザー設定値は、保存しておくこともできます。  p.84 「ユーザー設定値を保存する」

Mainメニュー画面

項目		購入時の設定		変更内容	
Primary IDE Master Primary IDE Slave	Type	Auto	Not Detected	Auto	Not Detected
	LBA/Large LBA	Auto	Disabled	Auto	Disabled
	Block Mode	Auto	Disabled	Auto	Disabled
SATA0 SATA1 SATA2 SATA3	32Bit Date Transfer	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Advanced メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
CPU Configuration	Virtualization Technology	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
Onboard Devices Configuration	Onboard Audio	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Onboard LAN Boot ROM	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Serial Port 1 Address	Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3		Disabled 3F8/IRQ4 2F8/IRQ3 3E8/IRQ4 2E8/IRQ3	
	Parallel Port Address	Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7		Disabled 378/IRQ7 278/IRQ5 3BC/IRQ7	
	Parallel Port Mode	Normal ECP EPP	Bi-Directional ECP & EPP	Normal ECP EPP	Bi-Directional ECP & EPP
USB Configuration	USB 2.0 Controller	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

Power メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
APM Configuration	Restore on AC Power Loss	Power Off	Power On Last State	Power Off	Power On Last State
	Power On By RTC Alarm	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCI Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PCIE Devices	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Power On By PS/2 Keyboard	Disabled	Ctrl+ESC	Disabled	Ctrl+ESC

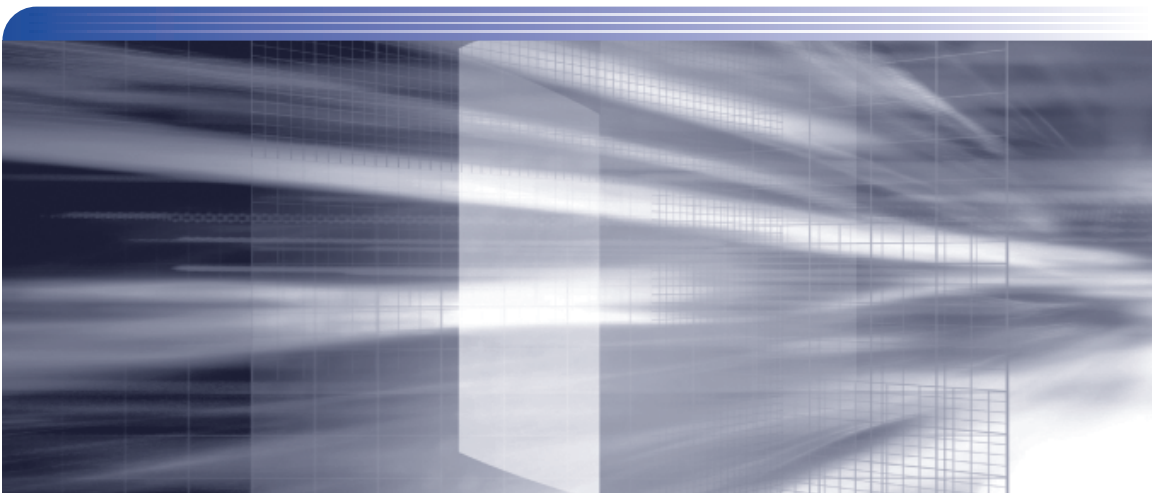
Boot メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Boot Device Priority	1st Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	2nd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	3rd Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
	4th Boot Device	Disabled	()	Disabled	()
Boot Settings Configuration	Full Screen Logo	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled
	Bootup Num-Lock	Off	On	Off	On

Security メニュー画面

項 目		購入時の設定		変更内容	
Security Settings	Supervisor password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	User password	Not Installed	Installed	Not Installed	Installed
	* User Access Level	No Access Limited	View Only Full Access	No Access Limited	View Only Full Access
	* Password Check	Setup	Always	Setup	Always
Hard Disk Security	* Hard Disk Protection	Disabled	Enabled	Disabled	Enabled

* 管理者パスワードを設定すると表示されます。



付録

本機のお手入れ方法や HDD 領域の変更方法などについて記載しています。

お手入れ	102
消去禁止領域のデータをバックアップする	103
HDD 領域の変更	106
コンピューターを廃棄するときは	110

お手入れ

本機は精密な機械です。取り扱いに注意して、定期的にお手入れを行ってください。



お手入れは、本機の電源を切った状態で行ってください。

本機のお手入れ

本機のお手入れ方法について説明します。

外装

コンピューター本体の外装の汚れは、中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で、軽く拭き取ってください。キーボードやマウスの外装の汚れも同様です。



ベンジン、シンナーなどの溶剤を使わないでください。
変色や変形の可能性があります。

通風孔

通風孔にホコリなどがたまると、空気の通りが悪くなります。
定期的乾いた柔らかい布で取り除いてください。

内部

本体内部にホコリなどがたまっている場合は、エアースプレーで吹き飛ばしてください。



- 作業するときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。
電源プラグを抜かないで作業すると、感電・火災の原因となります。
- 電源ユニットは絶対に分解しないでください。
けがや感電・火災の原因となります。



- 作業時は、誤って本体内部の部品を傷つけないよう注意してください。
- 水分を含ませたティッシュや化学ぞうきんなどは、使わないでください。
水分や化学物質により故障の原因となります。

消去禁止領域のデータをバックアップする

HDD の消去禁止領域に収録されている本体ドライバーやソフトウェアのインストール用データは、CD や USB 記憶装置にバックアップすることができます。
HDD が故障したり、誤って消去禁止領域を削除したりすると、インストール用データは消えてしまいます。万一来に備え、バックアップをおすすめします。

バックアップ方法

バックアップはリカバリーツールを使用して行います。バックアップ方法は次のとおりです。
※ DVD-ROM ドライブの場合、CD への書き込みはできません。



制限

HDD を 3 台装着していると、リカバリーツールが動作しないことがあります。
その場合は、3 台目の HDD を一旦取り外してください。
バックアップが完了したら、HDD を元どおりに接続します。

1 バックアップメディア（USB 記憶装置または空の CD）を本機にセットします。
「自動再生」画面が表示された場合は、閉じておきます。

2 デスクトップ上の「リカバリーツール」アイコンをダブルクリックします。



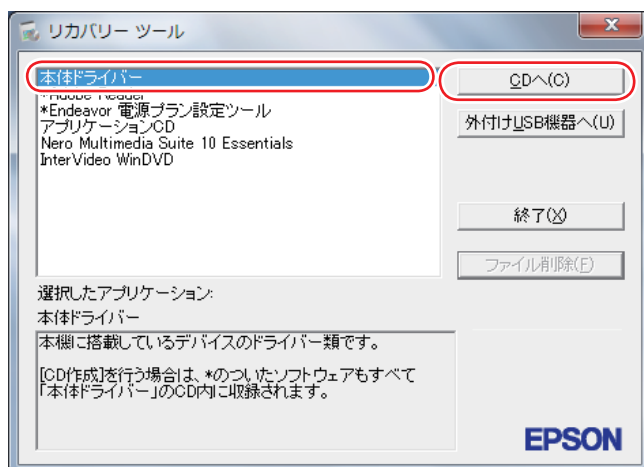
<リカバリーツールアイコン>

3 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。

4 「リカバリーツール」画面が表示されたら、[バックアップ] をクリックします。



- 5** 本体ドライバーやソフトウェアの一覧の画面が表示されたら、一覧からバックアップしたい項目を選択して【CDへ】または【外付け USB 機器へ】をクリックします。
- ・【外付け USB 機器へ】を選択すると、HDD 内（D ドライブなど）へもバックアップが可能ですが、万一に備え、データは外付けの機器に保存しておくことをおすすめします。
 - ・外付け USB 機器の場合は、消去禁止領域内のすべてのデータが一括でバックアップされます。バックアップに必要な空き容量は約 2GB です。容量は機種ごとの構成により異なります。
 - ・CD の場合は、1 項目につき 1 枚必要です。ただし、項目名の前に「*」のついたソフトウェアは、すべて本体ドライバーの CD 内に収録されます。個々に CD を作成する必要はありません。



<イメージ>

ここで、バックアップするデータが一時的に HDD にコピーされます。コピーには数分かかります。

- 6** 以降は画面の指示に従って書き込みを行ってください。

バックアップデータからインストールを行うには

バックアップデータからドライバーやソフトウェアをインストールする方法は次のとおりです。

CD からのインストール

- 1** バックアップ CD を光ディスクドライブにセットします。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「Install.exe *の実行」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - [コンピューター] - [CD-ROM アイコン] をダブルクリックします。
* CD により項目名は異なります。
- 3** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 4** インストール画面が表示されたら、以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

USB 機器からのインストール

USB 機器からのインストール方法は次のとおりです。

- 1** バックアップデータの入った USB 機器を本機に接続します。
- 2** 「自動再生」画面が表示されたら、「フォルダーを開いてファイルを表示」をクリックします。
「自動再生」画面が表示されない場合は、[スタート] - 「コンピューター」 - 「USB 機器」をダブルクリックして開きます。
- 3** バックアップデータが表示されたら、「EPSONInst.exe」をダブルクリックします。
- 4** 「ユーザーアカウント制御」画面が表示されたら、[はい] をクリックします。
- 5** 以降は画面の指示に従ってインストールを行ってください。

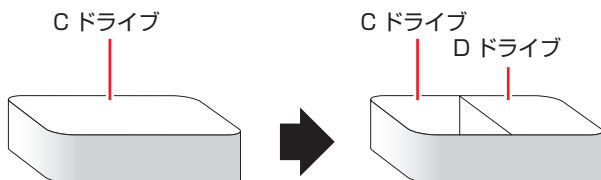
HDD 領域の変更

ここでは、HDD 領域の変更方法について説明します。

HDD領域を分割して使用する(概要)

HDD 領域は、いくつかに分けて使用することができます。

分割したひとつひとつの領域を「パーティション」と言います。また、Windows で使えるように作成した領域を「ドライブ」と言います。



参考

消去禁止領域

「消去禁止領域」には、本体ドライバーやソフトウェアなどを再インストールするためのデータと「Windows 回復環境 (Windows RE)」が設定されています。この領域を削除すると再インストールができなくなりますので、ご注意ください。

HDD 領域分割のメリットとデメリット

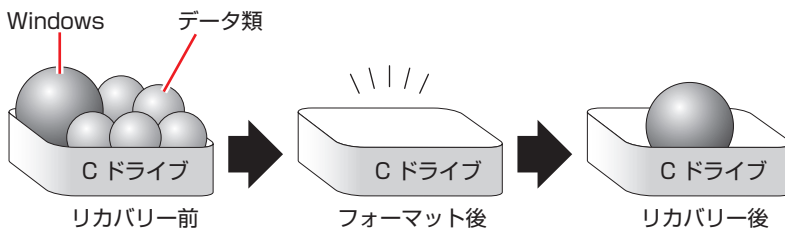
HDD 領域を分割すると、次のようなメリット・デメリットがあります。

HDD 領域を分割する場合は、これらをよく理解した上で行ってください。

メリット

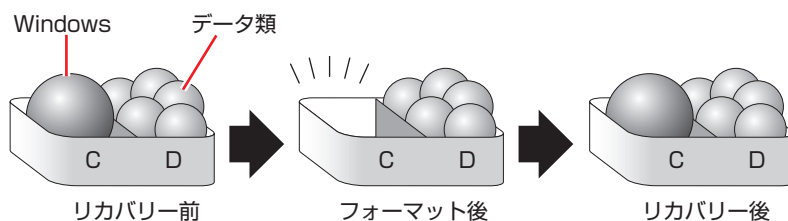
HDD 領域を分割してデータの保存先を分けておくことで、Windows の再インストール（リカバリー）時に最小限の作業で元の環境に復帰することができます。

HDD 領域が 1 つの場合



リカバリーを行うと、C ドライブのデータはすべて消去されます。

HDD 領域を分割した場合



たとえば、Windows やソフトウェアは C ドライブに、作成したデータなどは D ドライブに保存しておきます。

この状態でリカバリーを行うと、消去されるのは C ドライブのみとなるため、D ドライブのデータは、リカバリー後、すぐにそのまま使用することができます。



制限

リカバリーを行うときは、万が一に備え、C ドライブ以外のドライブの重要なデータもバックアップしておくことをおすすめします。

デメリット

- HDD 領域変更の際、ドライブを削除すると、ドライブ内のデータはすべて消去されます。
- HDD 領域を分割して使用すると、それぞれ分けられた領域の最大容量までしか使用できないため、それぞれの領域により、容量が制限されます。

HDD 領域の変更(拡張/縮小/削除/作成)

HDD 領域の変更は、Windows の「ディスクの管理」で行います。

C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) の領域変更も、「ディスクの管理」で行うことができます。



参考

Windows の再インストール中に領域変更する

HDD 領域の変更は、Windows の再インストール中に行うこともできます。

 **別冊** 『ユーザーズマニュアル』 - 「Windows のインストール」

ドライブの作成は、「ディスクの管理」で行ってください。



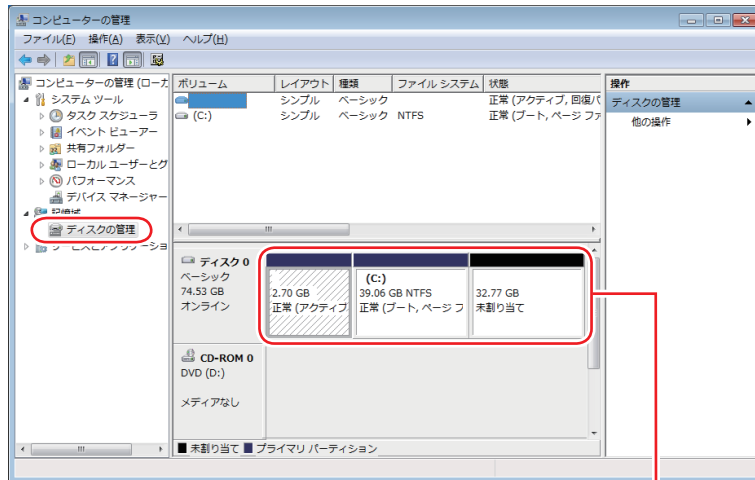
制限

- 作業の前に、重要なデータは外付け HDD などにバックアップしてください。
- 拡張はドライブのすぐ後ろ (右隣) に「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。
- 縮小できるサイズには限界があります。
- C ドライブ (Windows がインストールされているドライブ) は削除できません。
- ドライブを削除すると、ドライブ内のすべてのデータは削除されます。
- 作成は、「未割り当て」領域がある場合のみ可能です。

HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）方法は、次のとおりです。

1 [スタート] – 「コントロールパネル」 – 「システムとセキュリティ」 – 「管理ツール」 – 「コンピューターの管理」 – 「ディスクの管理」を開きます。

新しいHDDを装着した場合は、「ディスクの初期化」画面が表示されます。[OK] をクリックして、ディスクの初期化を行ってください。



<イメージ>

HDD 領域の状態

2 HDD 領域の変更（拡張 / 縮小 / 削除 / 作成）を行います。

ドライブを拡張する場合

- 1 拡張するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの拡張」をクリックします。
- 2 「ボリュームの拡張ウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ディスクの選択」と表示されたら、「ディスク領域 (MB) を選択」で拡張する容量を入力し、[次へ] をクリックします。
- 4 「ボリュームの拡張ウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
ドライブが拡張され、ドライブの容量が増えます。

ドライブを縮小する場合

- 1 縮小するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの縮小」をクリックします。
- 2 「[(ドライブ文字) の縮小]」画面が表示されたら、「縮小する領域のサイズ」を入力し、[縮小] をクリックします。
ドライブが縮小され、「未割り当て」領域が増えます。
※ C ドライブの目安：80GB (80000MB) 以上

ドライブを削除する場合

- 1 削除するドライブを右クリックして、表示されたメニューから「ボリュームの削除」をクリックします。
- 2 「・・・続行しますか？」と表示されたら [はい] をクリックします。
ドライブが削除され、「未割り当て」領域が増えます。

ドライブを作成する場合

- 1 「未割り当て」を右クリックして、表示されたメニューから「新しいシンプルボリューム」をクリックします。
- 2 「新しいシンプルボリュームウィザードの開始」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 3 「ボリュームサイズの指定」と表示されたら、サイズを指定して、[次へ] をクリックします。
- 4 「ドライブ文字またはパスの割り当て」と表示されたら、ドライブ文字を選択して [次へ] をクリックします。
- 5 「パーティションのフォーマット」と表示されたら、[次へ] をクリックします。
- 6 「新しいシンプルボリュームウィザードの完了」と表示されたら、[完了] をクリックします。
フォーマットが開始します。フォーマットが完了したら、ドライブが使用できるようになります。

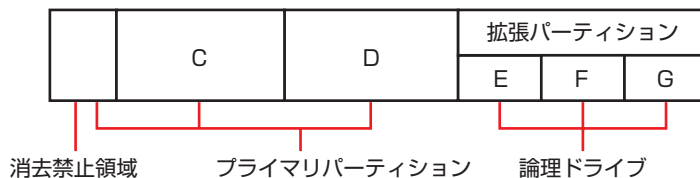


参考

パーティションの種類

- パーティションには、「プライマリパーティション」と「拡張パーティション」があります。
- 1 つの HDD に作成できるパーティションは最大で 4 つです。
- 「消去禁止領域」もパーティションの 1 つです。
- パーティションを作成すると、自動的に 3 つ目まではプライマリパーティションとなり、4 つ目は拡張パーティションとなります。
- 拡張パーティションには、論理ドライブをいくつも作成できます。

<パーティションの組み合わせの例>



コンピューターを廃棄するときは

本機を廃棄する際の注意事項や、HDD のデータ消去方法について説明します。
パソコン回収サービスについては、下記ホームページをご覧ください。

<http://shop.epson.jp/pcrecycle/>

コンピューターの廃棄・譲渡時のHDD上のデータ消去に関するご注意

コンピューターは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのコンピューターの中のHDDという記憶装置に、お客様の重要なデータが記録されています。

したがって、そのコンピューターを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータを消去するということが必要で

ところが、このHDD内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。

「データを消去する」という場合、一般に

- ① データを「ごみ箱」に捨てる
- ② 「削除」操作を行う
- ③ 「ごみ箱を空にする」コマンドを使って消す
- ④ ソフトで初期化（フォーマット）する
- ⑤ 付属のリカバリー CD/DVD を使い、工場出荷状態に戻す

などの作業を行うと思います。

まず、「ごみ箱」にデータを捨てても、OSのもとでファイルを復元する事ができてしまいます。更に②～⑤の操作をしても、HDD内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際はデータが見えなくなっているだけの場合があります。

つまり、一見消去されたように見えますが、WindowsなどのOSのもとで、それらのデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているという状態にあるのです。

したがって、特殊なデータ回復のためのソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読みとることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、このコンピューターのHDD内の重要なデータが読みとられ、予期しない用途に利用される恐れがあります。

コンピューターユーザーが、廃棄・譲渡等を行う際に、HDD上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、HDDに記録された全データを、ユーザーの責任において消去することが非常に重要です。消去するためには、専用ソフトウェアあるいはサービス（有償）を利用するか、HDD上のデータを物理的・磁氣的に破壊して、読めなくすることを推奨します。

なお、HDD上のソフトウェア(OS、アプリケーションソフトなど)を削除することなくコンピューターを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合がありますため、十分な確認を行う必要があります。

HDDのデータを消去する

本機を廃棄する前に HDD のデータを消去してください。
リカバリーツール CD に収録されている「システム診断ツール」では、HDD 内のデータをすべて消去することができます。
消去を開始すると、HDD のデータは元には戻りません。必要に応じてデータをバックアップしてください。




制限

データ消去の結果について、当社および開発元の Ultra-X 社は責任を負いません。
HDD のデータ消去・廃棄は、お客様の責任において行ってください。

消去されるデータ










HDD を複数台搭載している場合

この機能で消去できるデータは、SATA0 コネクタに接続されている HDD のデータのみです。
それ以外の HDD のデータを消去する場合は、HDD を SATA0 コネクタに接続してからデータの消去を行ってください。

 p.63 「ドライブ装置とコネクタの接続」

データの消去

HDD 内のデータを消去する手順は、次のとおりです。

- 1** 本機の電源を入れ、リカバリーツール CD を光ディスクドライブにセットします。
「自動再生」画面が表示されたら、 をクリックして画面を閉じてください。
- 2** [スタート] - [D] - 「再起動」をクリックして、本機を再起動します。
- 3** 「EPSON」と表示後、黒い画面に「Kernel Loading . . . Press any key to run PC TEST」と表示されたら、どれかキーを押します。
システム診断ツールが起動し、自動的に診断が開始します。
- 4**  +  を押して診断を中止した後、どれかキーを押します。
- 5** 選択項目画面が表示されたら、 で「HD Erase」を選択して  を押します。
- 6** 選択項目画面が表示されたら、 で「Full Erase」を選択して  を押します。
- 7** 選択項目画面が表示されたら、「No Verify」を選択して  を押します。
「!!WARNING!!」画面が表示されます。
消去が開始されると、途中で止めることはできません。
消去を中止する場合は、 を押すと、「システム診断ツール」画面に戻ります。



8 キーボードで「Yes」と入力します。

消去が始まります。

消去には、しばらく時間がかかります。かかる時間は HDD の容量によって異なります（40GB の HDD の場合で約 30 分）。

9 「Erase of HDO :Passed Press any key to continue.」と表示されたら、リカバリーツール CD を光ディスクドライブから取り出して、コンピューターの電源を切ります。

これでデータの消去は完了です。

